

明峰の

岩手県立前沢明峰支援学校
研究集録
平成30年3月26日発行

実践研究

18号

テーマ

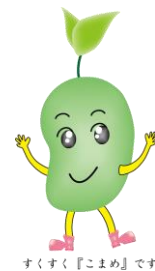
一人ひとりの主体性を育む

より良い支援を目指して

～タブレット端末の活用をとおして～

- 小学部：小学部におけるタブレット端末の効果的な活用をめざして
- 中学部：個に応じたタブレット端末を活用した支援について
- 高等部：社会生活能力の確立めざして～タブレット端末の活用～
- 寄宿舍：一人ひとりの主体性を育むより良い支援を目指して
～寄宿舍生活におけるタブレット端末の活用をとおして～

学校マスコットの
「こまめ」です。



すくすく「こまめ」です

目次

1	はじめに
2	全体研究
6	小学部研究
11	中学部研究
16	高等部研究
19	寄宿舍研究
22	あとがき

はじめに

校長 内館 由美

まもなく「学習指導要領」が改訂されます。小学校（小学部）は2020年から、中学校（中学部）は2021年から、高等学校（高等部）では2022年から、すべての学校教育の場で新しい教育が始まります。

学習指導要領の改訂は、戦後ほぼ10年ごとに行われてきました。これまでは、「知識の習得」を重視し、主として子どもたちに教える知識の量を増やしたり減らしたりして調整することに改訂の焦点が置かれてきました。

しかし、今回の改訂では、学び得た「知識の活用」を重視しています。従来の暗記型の教育ではなく、「思考力・判断力・表現力」など社会の中で自分らしく、人間らしく生きてゆくために必要とされる力をすべての学校教育の場で育ててゆこうというものです。これまでの流れとは全く異なる、大改革が行われようとしています。

そのような大きな方向転換をすることとなった根底には、世界レベルの社会環境の変化、情報社会への急速な転換があると言われていています。刻々と変化する情報社会で生き抜いていくためには、手に入れた情報を有効に活用し、様々な課題を解決し、自分の考えを発信する力が必要だと考えられています。

さて、本校では、平成28年度から29年度までの2年間、「一人ひとりの主体性を育むより良い支援を目指して～タブレット端末の活用をとおして～」というテーマを掲げ、児童生徒の主体性を育むための教育について研究を重ねてきました。

タブレット端末が平成27年度に初めて高等部の生徒に一人1台配備され、28年度には小・中学部にも複数台の端末が配備されたことにより、各学部や寄宿舎で日々の教育活動や生活支援を行う中で、さまざまな取り組みが行われてきました。

たとえば、高等部「体育」のマット運動の授業では、タブレット端末で撮影した画像を見て技のできばえを生徒自身が確認・修正し、実技の発表をしています。これは、改訂される学習指導要領で重視されているアクティブ・ラーニングそのものです。生徒が自ら気づき、相互に学び合う授業の実践は、本校でも日常的に行われております。

今回の研究集録をまとめるにあたり、児童生徒が将来、社会の中でたくさんの人たちとともに、豊かに、安全に、自分らしく生きてゆける力を育むために、私たちは更に研鑽を重ねてゆかねばならないと決意を新たにしております。

皆様には、是非ご一読いただき、忌憚のないご意見をいただきますよう、また、これからもご指導ご支援を賜りますよう、あわせてお願い申し上げます。

最後に、研究を進めるにあたり、多くの皆様にご指導ご助言をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

全体研究

1 テーマ

一人ひとりの主体性を育むより良い支援を目指して
～タブレット端末の活用をとおして～

2 設定の理由

本校では、平成25年度より3年間「つなぐ」をキーワードに児童生徒へのより良い支援についての研究を行った。この研究では、キャリア教育の視点を取り入れ、児童生徒の今と将来の豊かな生活をめざし、児童生徒が力を発揮できるように、自己肯定感や主体性を育むことができるように、社会生活能力と自己選択・自己決定力を育成することができるように取り組んだ。この研究から、学校と家庭、地域、関係機関と連携しながら、児童生徒が学習に興味をもち主体的に取り組むことができるための支援の大切さを知ることができた。そこで、これまでの研究の成果を活かしながら、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、さらに主体性を育むことができるより良い支援を探っていきたいと考えた。

また、平成27年度から岩手県では、『障がいのある児童生徒の自立と社会参加を支援するため、タブレット端末を活用した実践的・効果的な授業の実施』を目的とした自立活動充実事業が始まっている。高等部の生徒は全員がタブレット端末を持つことになり、小学部・中学部にも県費でのタブレット端末が配備されることになった。タブレット端末は移動性や記録性が高く、比較的簡単に操作することができ、様々な活動の場面で個々に合わせた支援をすることができる。この利点を活かすことと、これまでの本校の実践を活かしながら、児童生徒の主体性を育むためにタブレット端末を活用した支援の方法を探っていきたいと考え、このテーマを設定した。

3 内容

- (1) タブレット端末の操作方法の習得
- (2) タブレット端末を活用した主体性を育む支援方法の探求

4 方法

(1) タブレット研修会の実施

平成28年度	第1回	内容	基本的な操作方法について
		講師	総合教育センター 主任研修指導主事 近藤健一 先生
	第2回	内容	・PCとのデータ移動の方法、アプリのダウンロード方法、 ・アプリの紹介
		講師	本校職員
	第3回	内容	・国語・算数の学習向けアプリの紹介 ・集団学習向けの機能の使い方について
		講師	本校職員
平成29年度	第1回	内容	・児童生徒に合わせたタブレット端末の活用について (主にアクセシビリティ機能について)
		講師	総合教育センター 主任研修指導主事 近藤健一 先生

(2) 講演会の実施

- ・平成 28 年 7 月 演題「特別支援教育における ICT 活用」
講師 国立特別支援教育総合研究所教育研修情報・支援部総括研究員
金森 克浩 氏
- ・平成 29 年 7 月 演題「特別支援教育における ICT 活用」
講師 NPO法人 支援機器普及促進協会（ATDS）理事長
高松 崇 氏

- (3) 学部毎の実践
- (4) 実践交流会の実施
- (5) 研究集録及び実践事例集の作成

5 成果と課題

(1) タブレット端末の操作方法の習得について

成果

○教師の基礎的な操作の習得について

それぞれの職員が基本的な操作が分かり、必要なアプリをインストールして活用できる環境はほぼ整ったと言える。AppleTV 等の周辺機器を活用している教師も確実に増えてきている。

○活用方法の拡大について

学習ドリル的なアプリを使うなど、ひとつの目的に対してひとつのアプリを活用することについては比較的早い段階で浸透した。写真や動画を使った活動の振り返りや、画像を画面上に表示して写真カードのように見せて使うことも、気軽に取り組むことができるため活用される場面は増えてきている。誰か一人が操作している画面や、考えを記入したプリントへの書き込みを、AppleTV を用いて大きな画面に映し、即時に共有する機能を使うなど、発展的な活用方法もいくつか実践できた。

課題

○教師のスキルの向上

プレゼンテーションや簡単な動画の作成などについては、活用できる水準に達している職員はまだ限られている。授業で活用する教材としての選択肢を増やすには、機能をまだまだ学んでいく余地がある。

○設備面について

従来のパソコンで作成した教材であれば、校内ネットワークに保存し、職員間で共有することができるが、タブレット端末で作成した教材については現在それぞれの端末に保存する状況である。学校全体で共有できる簡単な方法があれば、より活用できる場面は広がっていくと感じている。

○有料アプリについて

有料のアプリについては未だ購入実績がない状況にある。積極的な活用を促すためにも率先して、情報収集や試行を進めていく必要がある。

(2) タブレット端末を活用した主体性を育む支援方法の探求

成果

○今後の活用に向けたきっかけ作りができた

それぞれの実践について共有することで、活用のイメージをもつことができ、教材の一つとしてタブレット端末を認識する良いきっかけになった。また、日常的に手にとることが可能な場所に保管することで、職員の側にも積極的に活用しようという意識がみられた。

○主体性を引き出す活用方法について

タブレット端末はそれ自体新しく魅力的な教材であると同時に、操作が直感的で理解しやすい。また、音や映像によるフィードバックがあり、自分で操作したという実感がある。そのため、関心を引きやすいことに加え、自分でできた、という達成感を感じることができる。行事の説明に動きや音をつけたプレゼンテーションを活用することで、説明を注視するようになってきた、という事例などから、注意を引き授業へ引き込むきっかけ作りをすることができると言える。また、高等部でのコマ撮り動画を作成する実践では、基本的な機能の説明のみ教師が行い、必要なことは質問するようにしたところ、音楽の挿入の仕方などを積極的に質問する様子が見られた生徒もいた。自分でできるという実感をもつことで、意欲的に授業に参加することができたり、自分なりの表現を工夫したりという主体的な姿を引き出すことができることも分かった。

課題

○職員の知識・技術について

職員がまだまだタブレット端末でできることを理解しきれていない現状がある。普段の授業で使いこなせるようになるまでの技術がまだ乏しいと感じている職員が多い。タブレット端末のアプリや機能の理解をより深めていくことができれば、アイデア次第で日々の学習に有効な活用方法をまだまだ追求できる余地がある。今後も研修等をとおして職員の知識・スキルの向上を図っていきたい

○情報教育の必要性について

高等部にはタブレット端末だけでなく自分のスマートフォンを所有している生徒が多くいる。学習場面で使うことはもちろんだが、インターネットを介した他者とのやりとりや SNS を使った情報の発信などに関わる情報教育について、今後より深めていく必要がある。日常的なコミュニケーション能力の確立と合わせ、匿名性の危険性、文字による情報発信の難しさや責任等について、または情報の真偽を判断することなどについても取り組む必要があると感じた。

○活用したことで見つかった課題と他の教材の利点について

手軽に持ち運びができ、インターネットに繋がる環境であればすぐに検索ができることは、タブレット端末の強みである。授業の中でも行事の事前学習での調べ学習で多数活用されていた。しかし、実際使ってみると、インターネット上の情報量が多く、必要な情報を取捨選択することが難しいとか、写真のみで判断してしまうという例が複数あった。インターネットでの情報収集を取り入れるのであれば、範囲や時間を決めておくのが良かったという反省もあり、必要な情報を読み取る力を育てることも含めて、今後工夫が必要なところである。

一方で、Web での検索より出版物での情報収集の方が簡潔にまとまっていてわかりやすい、など情報収集の手段にもそれぞれに利点があることに気づいた生徒もいた。さまざまな方法に触れることで、あらたな気づきに繋がった印象的な実践だった。

7 まとめ

○タブレット端末でこそ可能な実践を探求する

これまでの教材や機器ではできなかったことがそれ 1 台で多数行うことができる、ということがタブレット端末の強みであり、それを教材として使う意義である。逆に言えば、これまでの教材で十

分実現できることや、他のより身近な物で代用可能なのであれば、無理にタブレット端末を選択する必要はない。今回の事例で言えば、高等部の製品販売で活用した「レジスタディ」は商品の名前・写真・金額を登録することで、写真を見て選択するだけで会計ができ、その教材の作成も端末一台で行うことができる。動画の作成の事例も様々あったが、写真やビデオの撮影はもちろん、アプリによってはシンプルな操作で編集まで全て行うことができるものもある。他にも、写真などをタップすると音声を発して意思を伝えたり、無作為に指を動かすだけで音楽を奏でられたりするなど、タブレット端末を使いこなせば今までできなかったことができるということも分かってきた。タブレット端末でしかできない魅力的な活動、使うことで困難さを支援できる活用法等を深めていきたい。

○主体性を引き出すために

タブレット端末の活用が児童生徒の主体性を育てるためにどれほど有効なのか、ということについてはまだまだ追求の余地があり、今後実践する中でさらに探っていく必要がある。今回の研究の中で分かったこととしては、

- ・魅力的な教材であるタブレット端末への興味関心を基にした、主体的なコミュニケーションの拡大と、それに伴う子ども同士の関わり合いの拡大を引き出すことができる。
- ・自分でできる、という自信から意欲や積極性を引き出し、自分の考えや作品を発信する力を育てることができる。
- ・視覚的、聴覚的な情報を活用することによる授業内容の理解の促進と、理解ができたことでの授業への参加意欲を引き出すことができる。

などの観点での活用事例があった。しかし、これらはタブレット端末に限ったことではなく、全ての授業とそのための教材にも同じことが求められる場面が少なからずある。目標を達成するために授業を考えていったときに、その目標を達成する手段としてタブレット端末がもっとも効果的な場合にそれを選択すれば良いのであって、それは他の教材と何も変わらない。ただ、その選択肢を増やしておくためにも、情報収集や研修を重ね、タブレット端末で実現可能なことを1つでも多く知っておくことは必要不可欠である。

○授業力の向上が全ての土台になる

上記のように、タブレット端末に限らず、すべての教材は、授業の目標を達成するための手段の一つとして存在する。「この目標を達成するためにこういう活動が適切で、そのためにはタブレット端末が不可欠である。」という過程を経て教材を選ぶことが本来のあり方である。今回の研究ではタブレット端末の有用性を検証することが主な内容であったため、活用の仕方のイメージをもつという意味では成果があったが、まず使うことが前提となってしまったところがある。今後、より効果の高い活用方法を見いだすためには、授業力を高め、よりよい授業を作っていくことがもっとも重要で根本的な方法になる。

普段の授業を考えると、的確な児童生徒の実態把握のもと、目標を設定し、それを達成するための授業を考える。その授業を作るためにどのような教材を使い、どのような指導支援を行うのか。その考え方や、検討過程を突き詰めていくことで、授業力は向上していく。今後も、様々な視点から授業力の向上を目指して取り組みを進めていきたい。その結果としてタブレット端末の活用方法も広がりを見せしていくはずである。

小学部研究

1 テーマ

小学部におけるタブレット端末の効果的な活用をめざして

2 設定の理由

タブレット端末の普及により、家庭でスマートフォンやタブレット端末を使用することが児童に身近なものとなってきている。自立活動充実推進事業によって、平成28年度小学部にもタブレット端末が数台入ることとなったこともあり、今後学校でも授業等で活用することが増えていくことが予想された。そのため、児童の意欲を引き出し、児童がよりよく学ぶことができるタブレット端末の活用方法を探っていきたい。また、学校外においても使用に当たってのルールやそれに沿った使い方ができるような力を身につけるためにも、このテーマを設定して研究を進めていきたい。

3 内容

- (1) タブレット端末使用に関して児童の実態把握をする。
- (2) 実態等に合わせた実践のグルーピングを行い、学級で実践を行いながら各グループで研修を進める。
- (3) 学級や個人単位でタブレット端末を使用した経験を積み重ねる。
- (4) 効果的な実践、適切でなかった実践内容を共有し、次の実践に活かしていく。
- (5) アプリ等の活用例などについて研修する。

4 方法

- (1) 前年度の反省や児童の実態等を踏まえ、活用目的・内容を精選し、グループ分けをする。
- (2) 各学級で実践を行いビデオなどに記録してグループ内で検討する。
- (3) 行った実践を記録シートにまとめ、蓄積する。
- (4) 学部内で各グループの実践を発表する場を設定し、活用場面ごとでの実践を共有し、タブレット端末の活用方法を深める。

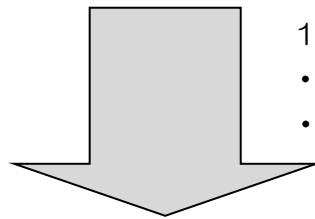
5 研究の経過

1年次

児童の実態把握	実践・研修	まとめ
○家庭へのタブレット端末使用状況等のアンケート (資料1) ○学校での様子観察	○各学級での実践 ・ビデオでの記録 ・実践記録シートの活用 ○7、8、10、11月に低学団、高学団に分かれての実践発表、共有 ○研修 タブレット端末の基本的動作等についての研修	○学部全体で実践報告とまとめ (1年次研究の反省と次年度に向けて)

1年次のまとめとして…

- 成果：・児童の実態に合わせてアプリを取り入れ、学習に取り組むことができた。
- ・実践を共有したことで、似たような課題のある児童へ同じアプリを活用して学習に取り組むことができた。
 - ・研修を行ったことで、職員もタブレット端末の使い方に少しずつ慣れてきた。
- 課題：・児童の実態によっては技術的な問題でタブレット端末をうまく使うことができない。
- ・個別学習への偏りにより、集団学習や普段の授業で活用できる場面が広がらなかった。
 - また、授業の中での有効な活用方法の研究や、主体的な姿を引き出す活用が不十分。
 - ・職員内のタブレット端末技術のさらなる向上。



1年次の反省を踏まえ…

- ・活用場面を精選し、実践を積み重ね、共有する。
- ・研修でタブレット端末活用の技術を高める。

2年次

・児童の実態把握 ・グルーピング	実践・研修	まとめ
○学校での様子観察 ○グループ ①余暇・ルール ②コミュニケーション ③個別学習 ④集団学習	○各グループでの実践 ・ビデオでの記録 ・実践記録シートの活用 ・毎月の学部研究会で実践発表、共有 ○研修 アクセシビリティ機能等を活用したタブレット端末の使い方について等	○各グループ、学部全体で反省とまとめ

6 成果と課題

成果

- ・活用場面を精選したことで、実用的な活用方法を細かく分析し、研究に取り組むことができた。活用場面を「集団学習・コミュニケーション」に焦点化した学級では、カメラ機能を主に活用し、帰りの会の振り返り場面でタブレット端末での写真の提示を継続したことで意欲的に活動に参加する姿がみられてきた。また、ゲームを取り入れた学級では友達同士で仲良く遊ぶ姿や他の授業と一緒に活動に取り組もうとする様子もみられるようになってきた。
- ・色彩効果やタップ、スワイプでの動的な操作、音声ガイダンス等の聴覚的な効果もあり、職員の指示がなくても児童が自分で学習に取り組むことができた。また、アクセシビリティ機能の活用により、児童の技術的な問題で活動が中断されること等が少なくなった。

課題

- タブレット端末を使うこと自体に重きが置かれてしまったので、よりタブレット端末の有用性が分かる実践事例などが始めからあると取り組みやすく、児童にとっても有益となる学習になったのではないかと思われる。学ばせたいことを考えてそれに合った状況設定をする必要があり、その面でまだ工夫が必要だった。
- 児童が進んでタブレット端末を活用できる環境が整っていなかったことや、なかなか一人で操作することを任せられない児童もいたため、余暇としてやコミュニケーションツールとしての使い方まで広げることができなかった学級もあった。
- 普段の授業で使いこなせるようになるまでの技術がまだ乏しいと考える職員が多い。また、技術的な研修はもちろん、児童が将来タブレット端末を安全に使うことができるような実践についても研修を行っていく必要がある。

7 まとめ

1年次の研究を受け、児童の主体性をより育むことができるようなタブレット端末の活用方法を探ってきた。活用目的・内容を精選して実践したことで、タブレット端末をコミュニケーションツールの一つとして使うことができたことや、使う上で必要となってくるルールを学ぶこと、自分の力で学習に取り組もうとする姿がみられるようになったことなどの成果が得られた。その一方で、活用場面の設定や活用の工夫が不十分だったため、本来のねらいを達成するに至らなかった実践があったことが課題として挙げられた。また、アクセシビリティ機能等の研修を積み重ねてきたことで児童の技術面でのつまずきを少なくすることはできてきたが、将来的に児童自身が安全に使うことができるようになるために、小学部段階で学ぶべきことについても考えていく必要がある。さらに、児童の主体性を育むための一助としてタブレット端末を活用するためには、タブレット端末を使用する環境自体を整えていく必要もあることなど本当に多くの課題が挙げられた研究となった。しかし、これらの課題は研究しなければなかなか分からなかったことでもあり、今後のタブレット端末活用において必要となるであろう成果とも考えられる。

小学部の児童は幼少期からタブレット端末が身近にある世代となっている。高等部になると一人1台タブレット端末が渡されることもあり、これからも生活の中でタブレット端末に触れる場面はどんどん多くなっていくと思われる。その中で、児童がタブレット端末の特性を活かし、かつ安全に活用しながら、主体的に生きていけるような工夫を今後も探していきたい。

平日の場合

起きてすぐ 学校に向かう車内で 家に帰る車内で 帰宅後すぐ

夕食後から寝る前 合計()分程度

- 5 使い方について、決めているルールが何かあればお書きください。また、守られている様子、まだ守られていない様子なども教えてください。

- 6 使い始めと終わりの合図の伝え方はどうしていますか。

○始め方

お子さんから頼まれてから渡す お子さんが自分で探して持って行く

お子さんの様子が落ち着かないときなどに、保護者さんから渡す

○終わり方

「おわりだよ。」などと声をかける 時計やタイマーを見て自分でやめる。

その他()

- 7 お子さんが興味を持って使うアプリ等のテーマを教えてください。

- 8 困っていることがあれば自由にお書きください

ご協力ありがとうございました。

中学部研究

1 中学部研究テーマ

個に応じたタブレット端末を活用した支援について

2 設定理由

中学部では、平成25年～27年度まで「今と将来の豊かな生活を実現するために中学部段階での授業はどうあればよいか」をテーマに、生活単元学習（作業学習）での生徒の自己肯定感や主体性を育むよう授業作りを中心とした研究を行ってきた。この研究では、生徒の興味・関心・意欲を大切にした授業や個に応じた目標・手立ての大切さを確認することができた。

自立活動充実推進事業により、中学部の授業でもタブレット端末を活用する機会が増えていくことが予想される。タブレット端末は生徒にとって身近な物であり、興味や関心を持ちやすく、また、移動性や即時性にも優れている。タブレット端末を生徒一人ひとりの課題に応じて多様に活用することで、生徒の興味・関心・意欲を大切にした授業や個に応じた手立てを充実することができると考え、この研究に取り組むこととした。

3 内容

- (1) タブレット端末の効果的な活用の研修
- (2) タブレット端末を活用した授業実践（学年毎3グループで実践）
- (3) 検証と成果・課題の整理

4 方法

- (1) 先行研究や他県のICT活用ハンドブック等から効果的な活用方法を学んだ。併せて、講師を招いてアクセシビリティ機能やアプリ等の活用について研修を行った。
- (2) 1年次では個別の課題学習でタブレット端末を活用した実践を行い、2年次では集団学習の場での個に応じたタブレット端末の活用の実践に取り組んだ。なお、実践については「タブレット端末を活用した授業プランニングシート」を作成し、授業の計画・実践を行った。
- (3) 実践を学部内で共有し、「個に応じたタブレット端末の活用であったか」「タブレット端末の活用により、生徒の主体性がはぐくまれたか」などについて検証し、成果と課題を整理した。

5 研究の経過

1年次の実践は、タブレット端末の台数が限られた中での実践だったため、集団での学習の活用事例は少なく、主に個々での活用が中心の実践となった。タブレット端末を活用したことで意欲的に課題学習に臨み、学習内容を覚えることができた事例や、一人で行動することができた事例などが挙げられ、学習成果につながったと言える。また、プレゼン活動（発表活動）や肢体不自由・聴覚障害の生徒のコミュニケーション手段としてとても有効であることが分かった。併せて、実践していくなかでタブレット端末の機能面の良さをあらためて実感することができた。タブレット端末の機能をよりうまく活用することで、個に応じた学習を展開できることが分かった。

□

そこで、2年次ではタブレット端末の活用を広げ、集団学習の場で活用することにし、より主体的な学びにつながるよう以下の2つの観点から使用の目的を明確にしてタブレット端末を活用することとした。

- ①生徒の興味・関心・意欲を高めて主体的な学びを促す
- ②障がいによる困難さを支援して主体的な学びを促す

6 成果と課題

成果

- ・集団の場においてタブレット端末を活用した実践では、グループ活動の一つとしてタブレット端末を活用したことで、生徒同士の関わりが増えたり、協力して課題を解決しようとしたりする姿が見られた。
- ・一人ひとりに応じてアクセシビリティ機能やアプリを活用したことで、操作の仕方を覚え、達成感を感じた生徒もあり、操作・表現に自信をもって活動に参加することができた。また、タブレット端末は分かりやすく選択でき、自己選択・自己決定の場が増えて自主性も育むことができた。
- ・プランニングシートの活用は、最初は書き方にとまどうことがあったが、授業を計画する上でタブレット端末の活用について整理でき、授業を進めやすかった。授業の中でタブレット端末をどのように使うのか目的を明確にして授業を行ったことが生徒の主体性を育むことにつながったといえる。

課題

- ・インターネットでの検索は情報量が多すぎて迷う生徒がいた。調べる範囲や条件などの枠組みを工夫する必要がある。また、文章の中から大事なことを読み取ることなど調べ学習の基礎的・基本的な学習の大切さについて実感した。そのうえでインターネットでの検索の仕方、情報の選択や真偽などについて学ぶ「情報モラル」学習にも計画的に取り組んでいきたい。
- ・インターネットが使えず、計画していた授業ができないことがあった。使用できない状況を想定して代案を用意しておくが良い。また、タブレット端末がないとできないことなのか、教材として用いる必然性についても考えておきたい。
- ・今後は作業や美術など作業的な学習でのタブレット端末の活用について、他学部や他校の事例を参考に取り組んでいきたい。

7 研究のまとめ

カスタマイズが大切！

個に応じたタブレット端末を活用したことで意欲的に課題学習に臨むことができ、表現活動や意思表示、選択・決定などに自信をもって取り組む姿がみられた。さらに集団学習での活用では、生徒同士が協力して工夫しながら活動に参加する姿が見られた。タブレットを介して生徒同士が互いに学びあい、主体的な姿が育まれた。

これには教師が活用の目的をしっかりと意識してタブレットを活用したり提示したりしたこと、生徒を理解して必要なニーズに応じて活用したことが有効であったといえる。タブレット端末を何

のために活用するのか、障がいのどのような面を補い、どうなってほしいかを考え、目的や方法を明らかにして、一人ひとりに応じて工夫することが大切である。

アップデートをしていきましょう！

インターネットやスイッチ類、プリンターなどタブレット端末周辺器機が整わず、うまく活用できないことがあった。また、職員が自信をもってタブレット端末を活用するまでにはまだ至らず、研修もさらに必要である。今後、私たちをとりまく情報化社会は急速に進展していく。タブレット端末の活用の仕方やアイデア次第で、生徒たちの可能性は広がっていくと思われる。タブレット端末の環境の充実と併せて職員の知識・スキルの向上を図っていききたい。

※参考文献

- ・ICT 活用支援シート

「ICT を活用した授業づくりのポイント～主体的な学びにつなげるために～」

長野総合教育センター平成 27 年度プロジェクト研究

- ・特別支援教育におけるタブレット PC を活用した効果的な教育実践に関する研究
補助資料「タブレット PC の活用促進パッケージ」

岩手県立総合教育センター 教育支援相談担当

主体的な学び

子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び

※2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会第1回文部科学省資料より

学習活動での子どもの気持ち……

「〇〇したい」「次は〇〇に挑戦したい」「〇〇ができるようになってきた」
「〇〇がわかった（できた）」「ほかに方法がないかな」「生活に活かせるようになった」



主体的な学びを促すために……



タブレット端末の活用～何のために・どのように使うかを明確にして活用する

生徒の興味・関心・意欲を高めて
主体的な学びを促す

目指す生徒の姿や気持ちからタブレット端末の活用の具体的な手立てを考える。

学びに向かう生徒の姿・気持ち
例)「〇〇について調べたい」

↓

主体的な学びを促す支援
関心、疑問等から学習への必要感がもてる動機づけ

タブレット端末の活用の手立て
導入で学習問題の想像の具体がもてる画像・動画を利用する

障がいによる困難さを支援して
主体的な学びを促す

生徒の実態や障がいの特性からタブレット端末の活用の具体的な手立てを考える。

障がいの特性
例)【読む】漢字が読めない

困難を生じる背景
音韻認識

↓

支援の方向性
ルビを付ける

タブレット端末活用の手立て
Keynote 中の振り仮名
アプリ「振仮名」
アプリ「SmartBrowser」

※生徒の実態や授業によっては重複したり、一方のみであったりすることもある。

タブレット端末を活用した授業プランニングシート

1 授業の目標（ねらい）

- ・春を伝えるためにプリモーションビデオを作ることを知る。
- ・意欲的にビデオ撮影の活動に取り組む。

2 授業の目標（ねらい）のなかで ipad を活用した手立て 参考【ICT 活用支援シート】等

	学習活動	生徒の興味・関心・意欲	主体性を促す支援	タブレットを活用した具体的な支援
導入	学習内容を知る	1年生に春を伝えたい	・ビデオを作成する動機付け	・昨年度の学習の写真を提示し、学校周辺の春を探ることができたことを確認する。
展開	係分担を決める (監督・カメラマン・レポーターなど)	楽しいビデオを作りたい	・どのように作ったらよいか見通しがもてる支援	・教師が作成したプロモーションビデオを見せる。
	グループごとにシナリオを考える	上手に撮れたかな 別のアングルで撮ったらどうかな	・協力して話しあいや活動ができる支援	・基本的な操作方法・効果的な撮影の方法を提示し、撮影の工夫につなげる。
まとめ	ビデオ撮影	友達の〇〇が良かった	・解決の方法や表現方法の追求の見通しがもてる支援	・撮影した動画をみんなで見て、学習を振り返る。
	振り返り	次はカメラマンをやってみよう	・学習したことを次の学習に活かす意欲づけ	

3 生徒のニーズに応じた ipad の活用の手立て

参考【タブレット活用促進パッケージ】

生徒の実態	困難を生じる背景	支援の方向性	iPad 活用の手立て
・見えにくい ・注視するのが難しい	・視力 ・眼球運動 ・注視	・拡大する ・注意を引く	・写真のズーム ・動画を活用する
・言葉が不明瞭 ・発語がない	・難聴 ・語彙数	・音声を聞きながら一緒に話す ・録音した音声を流す	・アプリ「ひなぎく」の使用 ・音声機器として動画を再生する
・話すことや操作に自信がない	・経験不足・不安	・不安の解消	・その場で確認する ・何度も撮り直しをする

4 メモ

☆生徒みんなでシナリオを考えたり、ビデオを撮影したりする活動
みんなで話し合い協力しあいながら作り上げていく活動→主体的な活動

高等部研究

1 テーマ

社会生活能力の確立をめざして ～タブレット端末の活用～

2 設定の理由

県では、平成 27 年度から『障がいのある児童生徒の自立と社会参加を支援するため、タブレット端末を活用した実践的・効果的な授業の実施』を目的とした自立活動充実事業が始まり、本校においても高等部生徒全員にタブレット端末が支給されている。タブレット端末は、各種アプリケーションによる課題学習や情報収集のほか、コミュニケーションツール、動画によるフィードバック、さらには余暇活動など様々な活動への効果が期待される。

また、情報を活用するだけでなく発信する側となることも想定されることから、タブレット端末の特性や利用方法を理解し、適切な手段で自分の考えを他者に伝達する、あるいは情報を取捨選択して活用するメディアリテラシー、情報モラルについても取り組みが必要である。

それぞれの教育課程の中で生徒の実態に応じたタブレット端末活用の方法を探り、社会生活能力の確立につなげるため、この研究に取り組むこととした。

3 内容

- (1) 各生徒の実態に応じたタブレット端末活用の方法を探る。
- (2) 卒後の社会生活でも活用できるよう、ソーシャルスキルに関する取り組みを行う。

4 方法

- (1) 進路学習のグループごとにソーシャルスキルについての問題を作成する。
- (2) 進路学習や生活単元学習などでの実践を行う。
- (3) 活用場面の授業公開を行い、活用事例の共有をする。

5 研究の経過

平成 28 年度は、自立活動充実事業により 11 月に高等部 1 年にもタブレット端末が支給され、全生徒が使用できる環境が整った。それぞれの教育課程の中での活用を進めるため、タブレット端末の活用については全体研修会で研修をし、学部としては活用事例を紹介という形での取り組みとした。タブレット端末活用は進路学習の時間が多く、集団での調べ学習や、タブレット端末を介した集団での学び合い等が見られた。使用に当たっては、自宅でスマートフォンやタブレット端末を使用した経験のある生徒も多く、ほとんどの生徒が機器に対しては興味を示した。しかし、一人では様々な機能を使っての遊びにできてしまい、目的の使い方ができなくなるケースもあり、授業での使用方法に工夫が必要であった。実際の授業での活用場面は、3つの例で公開することができた。

自立活動充実事業が始まって 2 年が経過し、3 年生はそれぞれ自分の端末を持って卒業することとなる。その観点から、卒業後も活用できるようソーシャルスキルトレーニングを行った実践があり、この事業の意義を再確認できた。

29 年度は引き続き授業の中でタブレット端末を活用しつつ、各進路学習グループでソー

シャルスキルに関する〇×クイズを作成し、授業で活用することで社会生活能力の確立につなげることを目標とした。

6 成果と課題

成果

- 活用の場面が広がり、タブレット端末の使用が特別な事ではなくなっている。
- アプリの基本的な機能を使って活動したのち、さらに発展させようと生徒が職員に付加機能の使い方を尋ね、活動を充実させる場面が見られた。
- プリントへの書き込みを、AppleTV を用いて即時に共有することが可能であり、自分の意見をプレゼンしやすい。
- 「約束を守るとタブレット端末が借りられる」事を理解し、行動を抑制できるようになってきた生徒がいる。
- 日常的に手にとることが可能な場所に保管することで、職員の側にも積極的に活用しようという意識が見られた。
- 生徒が調べ学習で活動するうち、Web での検索と出版物での情報収集の双方に利点があることに気づいた。
- 昨年度課題であった情報モラルについては、東京都教育委員会が作成したアプリを使って取り組むことができた。

課題

- ソーシャルスキルに関する独自の設問を作ることに取り組んだが、完成させるには至らなかった。既存のものを有効に活用し、生徒が迷った際にはいつでも振り返りができる状態にしておく必要がある。実践例や効果的なアプリの情報共有は今後も続けていく。
- 高等部 1 年生は、自立活動充実事業によるタブレット端末導入時期の関係で、活用を促すことが困難であった。

7 まとめ

2 年間の取り組みを経て、生徒と職員双方が「とりあえずタブレット端末」から「このためにタブレット端末を使おう」という用途に応じた使い方に発展してきたと考える。その中で、Web 上の多くの情報から自分の必要とする情報を入手する難しさや、場合によってはガイドブックや情報誌の方がわかりやすいことに気づいた生徒もいたことは、うれしい成果である。

生徒がプレゼンを作成する場合、本校で導入しているタブレット端末である iPad では Keynote が標準的であるが、生徒の作品をまとめて提示するためには、職員の PC で作業することも考慮し、パワーポイントでの作業が有用であった。

一方で、販売活動において有用なアプリケーションが OS のバージョンアップに対応しておらず、新規のダウンロードができなかったことは、非常に残念である。(現在はアプリのアップデートにより最新の OS でも利用可能になった。)

情報モラルについては、東京都教育委員会が作成したアプリを用いて取り組んだ。タブレット端末の簡便さや操作のしやすさを生かし、朝学習や昼休みなど短時間でも繰り返し取り

組むことができた。中学校から入学してくる生徒のほとんどがスマートフォンを所有しており、日常的なコミュニケーション能力の確立と合わせ、匿名性の危険、文字による情報発信の難しさや責任等について、継続して意識化を図っていく必要がある。今年度で研究としての取り組みは終わりとなるが、高校の科目である「情報と社会」も参考としながら、私たち自身も学習をかさねていく必要がある。

今後もタブレット端末を活用していくためには、情報収集の大切さもさることながら、職員間でのちょっとした工夫の共有がポイントとなると言える。

寄宿舍研究

1 テーマ

一人ひとりの主体性を育むより良い支援を目指して
～寄宿舍生活におけるタブレット端末の活用をとおして～

2 設定の理由

本校では、平成25年度より3年間「つなぐ」をキーワードに児童生徒へのより良い支援を考えてきた。寄宿舍研究において、学校と家庭、地域との相互理解の大切さを知ることができた。これまでの研究の成果を活かしながら、今年度は寄宿舍生が主体的に暮らすことができるよう、更に主体性を育むことのできるより良い支援を探っていきたい。

平成27年度から県の自立活動充実事業が始まり、各校でタブレット端末を活用した支援の充実が課題となり、高等部の生徒は全員がタブレット端末を持つことになった。小学部・中学部にも県費でのタブレット端末が配備されてきたことから、寄宿舍では学校職員用のタブレットを用いてICTを活用した支援を試みることとなった。

タブレット端末は移動性や記録性が高く、比較的簡単に操作することができ、様々な活動の場面で個々に合わせた支援が考えられ、この利点を活かすことで一人ひとりの主体性を育むより良い支援のための有効なツールの一つとして活用できるものと考え、取り組むこととした。

3 内容

- (1) タブレット端末の操作方法の習得。
- (2) 寄宿舍内で取り組みを共有し研究に取り組む。
- (3) 舎生の日常生活の取り組みとする。
- (4) タブレット端末を用いた生活指導場面有効性の検証。

4 方法

- (1) タブレット端末学習会を通じて習得を図る。年3回。
- (2) 共有フォルダを用い舎内の情報共有を図る。
- (3) 各棟、対象舎生を限定せずに取り組む。
- (4) 事例検討会を通し検証する。

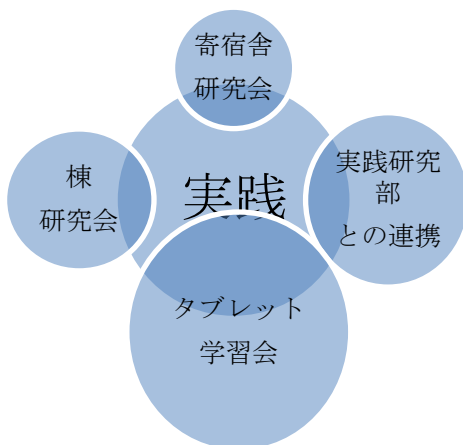
5 研究の経過

1年次及び2年次の取り組みの経過

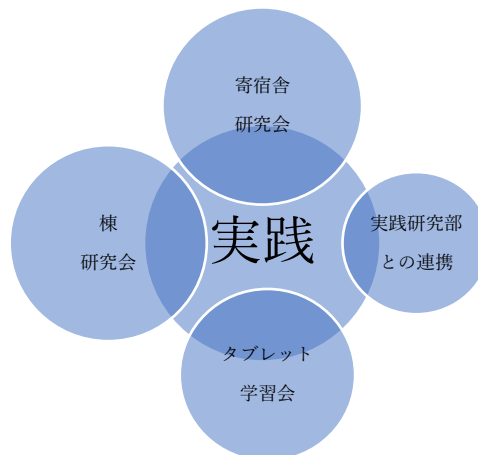
主な取り組み	1年次 H28	2年次 H29
タブレット端末学習会	<ul style="list-style-type: none">・ 職員のタブレット端末調査を行い学習会の内容へ反映・ 基本操作を中心とした技術取得・ 年3回実施。基本的な使い方とパワーポイントの学習	<ul style="list-style-type: none">・ 職員のタブレット端末調査継続・ いくつかのアプリの学習を追加・ 年3回。基本的な使い方とパワーポイント、〇×クイズメーカー、ストップモーションスタジオの学習

主な取り組み	1年次 H28	2年次 H29
共有フォルダ	・ファイルサーバ上に作成し、事例とICT参考資料を共有	・継続
各棟、対象舎生を限定せずに取り組み	・寄宿舍生のタブレット端末実態調査実施。 ・利用を研究対象に限定せず広く試みた。 ・多くの取り組みを試みることができた。	・前年度の継続 ・タブレット端末利用の見直しを図り勧めた。 ・取り組み実践例の数は減り、継続した取り組みが多かった。
事例検討会	・各棟と寄宿舍全体の事例検討会を実施。 ・研究係の他に各棟研究係を置いて進めたが、仕組みが複雑になり円滑な運営に至らなかった。	・各棟の事例検討会を実施。寄宿舍全体の事例検討の機会を増やした。 ・研究係2名で推進を行った。

1年目の取り組み像



2年目の取り組み像



6 成果と課題

(1) 成果

- ① 指導の際に寄宿舍生が目で見えて分かりやすいことを実感した。また動きをつけることで、注目してくれることが増え、伝えたい事柄や意図のすれ違いが少なくなった。
- ② タブレット端末操作をしたい等の自主的な意思表示が多くみられた。
- ③ 寄宿舍内でタブレット端末学習会を行ったことで、基本的な操作方法とタブレット端末への転送方法やルータへの接続確認などの手順を習得する職員が増えた。
- ④ 職員のタブレット端末利用経験が浅いことを考慮し、対象舎生を限定せずに取り組みすることで、多くの実践事例が得られた。
- ⑤ 実践を通じ、パワーポイント、O×クイズメーカー、サイボウズを使った活用方法を覚えることができた。

(2) 課題

- ① 職員の新規アプリケーションへの希望と、利用に迷う期間が長く続いてしまい、標準機能を利用した活用を探ることが遅れた。アプリに頼りすぎないことが大事である。
- ② タブレット端末は移動性が高いと設定理由で述べたが、携帯性については寄宿舍生の体力によっては、まだまだ重いもので、落下による怪我等の事故もあり、扱う子供によって工夫が必要である。
- ③ 職員間にタブレット端末に対する苦手意識が残っているところがみられた。本研究では下校から登校までの時間に2台のタブレット端末を利用してきたが、下校間にデータ作成や事前の確認が難しかったことが影響した。事前の動作確認ができる複数台のタブレット端末が用意されていることが望ましい。
- ④ AppleTVが動かない、ケーブル断線が続くなどしたため、動作確認が事前に必要である。また、トラブルへの対応を想定した用意が必要である。

7 まとめ

本研究のテーマを2年間目指してきた中で関わった多くの職員が「ねらいをもって個々に合わせた活用をする」ことがとても大事であると実感した。

研究の取り組みは終了するが、今後タブレットを用いた支援状況は増えると考えている。タブレット端末の活用の機会を今後も取り入れ、生活指導に活用していきたい。

あとがき

副校長 千田 滋久

研究2年目の今年度、教室をまわってみると、教職員がタブレット端末を活用して授業を行ったり、児童生徒がタブレット端末を操作したりしている光景をよくみかけるようになりました。タブレット端末を操作している児童生徒の中には、私に計算問題等の答えを求めてくる子もいました。そんなときの児童生徒の表情は、とても生き生きとしていました。日々の教育活動のツールの一つとして、タブレット端末が活用されはじめていることを実感することができました。

このように、昨年度から児童生徒の主体性を育むために、タブレット端末を活用した支援の方法について、各学部、寄宿舎で実践を積み重ねてきた成果をみることができるようになってきました。また、タブレット端末を初めて操作する教職員が多い中で、様々な場面で活用できたことも、一つの成果であると考えています。

今後もタブレット端末を児童生徒の障がいの特性や発達段階に応じて、学習、生活、コミュニケーション、余暇等の指導・支援に活用していきます。

タブレット端末やアプリケーションは、さらに進化していきます。それに振り回されることなく有効に活用し、児童生徒の主体性を育むために、タブレット端末についての知識や技術の向上を図っていきます。また、教職員の専門性や授業力の向上も図っていきます。

皆様のなおい層のご指導をお願いします。

最後になりましたが、タブレットの基本操作やアプリケーションについて、分かりやすく具体的にご指導いただいた岩手県立総合教育センター主任研修指導主事の近藤健一様、女子美術大学芸術学部教授の川口吾妻様、実践研究発表会でご指導・ご助言をいただいた岩手県教育委員会学校教育課特別支援教育担当指導主事の藤原淳一様、そして、岩手県高等学校教育研究会講演会でご講演ください国立特別支援教育総合研究所教育研修情報・支援部総括研究員の金森克浩様、NPO法人支援機器普及促進協会（ATDS）理事長の高松崇様に厚く感謝申し上げます。

实践事例集

もくじ

小学部実践事例

ページ	対象学年	領域・題材	使用したアプリ
1	4・5年	余暇活動	カメラ、1 / 16ほか
3	4年	余暇活動	神経衰弱
5	6年	余暇活動	パンケーキタワーほか
7	1年	生活単元学習 「作った作品で遊ぼう」	ストップモーションスタジオ
9	2年	日常生活の指導 「朝の会をしよう」	VOCACO
11	5年	日常生活の指導 「掃除をしよう」	絵カードカウンター VOCACO
12	1年	自立活動 「タブレットにさわってみよう」	ピタゴラン
14	3年	自立活動「数えてみよう」	かずタッチ
15	2・3年	算数「なんばんめかな？」	Keynote

中学部実践事例

ページ	対象学年	領域・題材	使用したアプリ
17	1年	生活単元学習 「〇×クイズをつくろう」	〇×クイズメーカー
19	2年	生活単元学習 「前沢の春を伝えよう」	カメラ、Magisto、ひなぎく
22	2年	生活単元学習 「校外学習にいこう！！」	カメラ、Keynote、 GoogleEarth
24	3年	生活単元学習 「修学旅行に行こう」	Safari、iSmartCopy

高等部実践事例

ページ	対象学年	領域・題材	使用したアプリ
26	2年	進路学習 「働くために必要な力～履歴書 を書いてみよう～」	カメラ
27	2年	日常生活の指導 「情報モラルについて知ろう」	こころストーリー
28	2年	余暇活動	カメラ、Safari
29	2年	生活単元学習「アート」	ストップモーションスタジオ

寄宿舎実践事例

ページ	対象学年	領域・題材	使用したアプリ
31	全寄宿舎生	クリスマス会のオープニング 動画をみんなで作ろう	ストップモーションスタジオ、 AudioRec
33	男子棟全員	寄宿舎での生活を確認しよう	MicrosoftPowerPoint
34	男子棟全員	就業体験中の寄宿舎生活を確認 しよう	MicrosoftPowerPoint
36	高1男子	ギターを弾こう	iSmartCopy
38	男子棟全員	避難訓練について確認しよう	MicrosoftPowerPoint
40	男子棟全員	避難方法について確認しよう	MicrosoftPowerPoint
43	高3男子	希望を伝えよう	筆談パット

小学部	単元題材名	余暇活動	授業者名	内記 裕太
-----	-------	------	------	-------

[1 対象児童生徒]

- ・小学部 4・5年生 (6名)
- ・ダウン症、自閉症、知的障害、ADHD など様々な実態の児童が在籍している。タブレット端末を使ってカメラやゲーム等のアプリで遊ぶことは好きで、自分で操作して好きなアプリ等で楽しむ様子が見られる。あまり興味を示していない児童も1名いる。
- ・教師が手に取っていたり、積極的に使う児童が使っていたりする様子を見て近寄って来ることはあるが、自分から借りたいことを教師に伝えるなどはまだ少ない。
- ・友達が使っているところに断らずに手を伸ばして操作したり、断らずに持って行ってしまったりする児童もあり、コミュニケーションをとりながら使ってほしい。

[2 ねらい]

- ・タブレット端末を使って、みんなで楽しく遊んでほしい。

○めざす主体的な姿→・タブレット端末を借りたいと教師に自分から伝える。

- ・友達と交換しながらタブレット端末を操作する。
- ・タイマーが鳴ったら遊ぶのをやめて、教師に返す。

[3 使用したアプリ]

- ・カメラ  ・カメラロール  ・1 / 16  ・ピタゴラン 

など、教室のタブレット端末に入っているもの。

[4 学習の様子] 学習の形態 (集団・個別)

※事前に学級内でのタブレット端末を使用する際のルールを示し、教室内に掲示しておく。

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後、教師の話を聞いて休憩できる時間を知る。 ・教師に iPad を借りる。 →児童の指さしなどでの訴えを見かけたら、話して伝えるように促す。必要に応じて言い方を教える。また、終了時刻に合わせて iPad のアラームを設定しておく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなアプリを自分で開いて、自由に遊ぶ。 ・一緒に遊んだり、iPad の台数が限られていたりする場合は友達に伝えて一緒に遊ぶ。 →必要に応じてホワイトボードとマグネット付きの顔写真を使い、順番を決めて遊ぶことができるようにする。また、タイマーを使って一人が遊ぶことができる時間を設定し、交代するタイミングを分かるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマーが鳴ったら、iPadの電源を切って教師に返す。 →必要に応じて次の活動を伝えたり、学級での約束を確認したりして活動の切り替えを促す。
--	--

[5 成果と課題]

成果

- ・ホワイトボードを用いて順番を示すことで、自分たちで交代をしながら遊ぶ場面が見られるようになってきた。
- ・ルールを示したことで、自分から教師にタブレット端末を借りに来るようになった児童もいる。

課題

- ・独り占めしたり、順番を変わりたがらなかつたりする児童も未だにいる。
- ・自分から貸してほしいことを伝えることがまだ難しい児童がいる。
- ・複数人で楽しく遊ぶことができるようなアプリを探し児童に示すことで、より集団で楽しく遊ぶ場面を引き出したい。
- ・使える時間、使えない時間を表示することで、自分で判断して余暇活動ができるように工夫していきたい。

〇めざす主体的な姿に関わる成果と課題

- ・借りるときの言い方を覚えて、言おうとする児童が増えてきたが、断らずに持って行く児童もいる。
- ・ホワイトボードやタイマーの活用で順番を意識するようになってきたが、時間が来ても交代せずに一人で遊びたがる児童も未だにいる。また、順番をきめて遊びたいときに、自分からホワイトボードを取りに行くような姿も期待したい。
- ・使い方の一連の流れを覚えて、時間が来るとききちんと返すことができる児童もいる。ただ、やめるまで時間がかかる児童や、電源を切ることを自分で行いたくて、他の児童が持っているタブレット端末までほしがる児童などもいる。今後、返却する場所を固定するなどして、片付けてから次の活動に自分で移行できるようにしていくなどの工夫をしていきたい。

[6 その他]

小学部	単元題材名	余暇活動	授業者名	菊池 いずみ
-----	-------	------	------	--------

[1 対象児童生徒]

- ・小学部4年生（3名）
- ・HHV-6脳症（突発性発疹による急性脳症）、心臓機能障害、広汎性発達障害の児童が在籍している
- ・三人とも興味関心は様々であり、三人で一緒に遊ぶ場面はあまり見られない。
- ・タブレット端末を使ってゲームなどのアプリで遊ぶことは好きで、自分で操作して好きなアプリ等で楽しむ様子が見られるが、タブレット端末を自分の好きなように操作したい気持ちが強い児童や、安全に使用することが難しい児童がいるため、学級三人一緒の場面でタブレット端末を使用したことはない。
- ・タブレット端末のゲームを通して三人で仲良く遊んでほしいが、一つのタブレット端末を三人で同時に囲むことは難しいため、大型テレビで画面を共有することで、三人で楽しんでほしい。

[2 ねらい]

- ・タブレット端末を使って、みんなで楽しく遊んでほしい。

○めざす主体的な姿→・タブレット端末の使い方に慣れ、楽しくゲームをする。

- ・順番を守り、タブレット端末を操作する。

[3 使用したアプリ・機器]

- ・神経衰弱ゲーム  ・AppleTV ・大型テレビ

[4 学習の様子] 学習の形態（集団・個別）

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
第1期	<ul style="list-style-type: none"> ・「絵カードで神経衰弱ゲームをしよう」 ・順番を決める。 ・正解したらカードをもらえる。 <p>→興味関心がもてるように児童の好きなキャラクターの絵カードを使う。</p> <p>→絵カードの作成はY児、H児が行った。（S児は交流のため不在）</p> <p>→教師は児童に絵カードを見せながらテーブルに並べていく。</p>
第2期	<ul style="list-style-type: none"> ・「数字のトランプで神経衰弱ゲームをしよう」 ・順番を決める。 ・正解したら、好きなキャラクターの絵カードをご褒美にもらう。 <p>→数字のカードを使用する。（8～9ペア）</p> <p>→教師はトランプを見せながらテーブルに並べていく。</p>

第3期	<ul style="list-style-type: none"> ・「ipad で神経衰弱ゲームをしよう」 ・順番を決める。 ・カードをタップしてめくる。 ・正解したら、好きなキャラクターの絵カードをご褒美にもらう。 <p>→大型テレビに ipad の画面を映す。</p> <p>→児童の実態から、ゲームの開始までのタブレットの操作は教師が行う。</p> <p>→T 1 は順番にタブレットを持って児童の所を回る。</p>
-----	---

[5 成果と課題]

成果

- ・タブレット端末を使用する前の学習で、本物のトランプを使った神経衰弱ゲームは経験を積んでいたため、タブレット端末での神経衰弱ゲームへの移行はスムーズであった。
- ・どの児童も自分の順番を待って、操作することができた。
- ・正解したら好きな絵カードをもらえることを理解し、楽しみにすることができた。
- ・タブレット端末に関心が強い児童も、好きなキャラクターの絵カードを集めることへ関心が向いていたので、タブレット端末へ執着することはなかった。

課題

- ・タブレット端末使用前の学習では、教師が絵カードや数字のトランプを並べる位置を、児童の実態に合わせて並べることができたが、タブレット端末のアプリではそれができないので、正解率が低くなり、時間もかかる。
- ・タップしたいカードではないカードに触れてしまう場合がある。
- ・大型テレビとタブレット端末の画面が一緒のものだという認識はどうか。
- ・大型テレビの画面に注目できない児童もいた。

〇めざす主体的な姿に関わる成果と課題

- ・タブレット端末のタップに慣れ、安全に使用することができた。
- ・事前の学習期間を十分にとったことで、ルールを覚え、見通しをもってゲームを楽しむことができた。
- ・三人で遊びを共有できる場面を作ることができた。
- ・友達の順番を見て、応援している姿が見られた。

[6 その他]

小学部	単元題材名	余暇活動	授業者名	箱石 夏歩
-----	-------	------	------	-------

[1 対象児童生徒]

- ・小学部6年生（5名）
- ・知的障害、ダウン症、自閉症スペクトラム、筋ジストロフィーと様々な実態の児童が在籍している。すでに学校外でタブレット端末やスマートフォンに親しんでいる児童、ほとんど使ったことのない児童と使用経験も幅広い。
- ・自分が触った部分に変化が起きる画面をじっと見たり、タブレット端末から聞こえる音に反応したりとそれぞれが興味をもっているようである。
- ・タブレット端末を指差して貸して欲しいことを伝える児童や好きなアプリを開いて楽しむことができる児童がいる一方で、独り占めしたくなる児童や友達が遊んでいると消極的になる児童もいる。
- ・みんなで使うための約束や使用を通してのコミュニケーションも経験しながら、将来的にはタブレット端末を個に応じた意義あるものとして活用してほしい。





[2 ねらい]

- ・タブレット端末を使って好きな余暇活動を見つけ、将来につながるような経験をしてほしい。
- ・約束を守ってみんなで楽しく遊んでほしい。

○めざす主体的な姿→自分が使いたいアプリを選んで、余暇を楽しむ。

- ・タブレット端末を借りたいと教師に自分から伝える。
- ・時間や順番などの約束を守って、友達と一緒にタブレット端末を使う。

[3 使用したアプリ]

- ・カメラ 
- ・1/16 
- ・ピタゴラン 
- ・パンケーキタワー 

など、教室のタブレット端末に入っているもの。

[4 学習の様子] 学習の形態（集団・個別）

※事前に学級内でのタブレット端末を使用する際のルールを示し、教室内に掲示しておく。

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間など iPad を使用できる時間を伝え、いつも決まった場所に置いておく。 ・教師に iPad を借りる。 →実態に応じて、話して伝えるように促したり、「貸してください」を示すカードを用意しそれを教師に渡すように伝えたりする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット使用表に自分の顔写真を貼り、タイマーをセットする。 ・好きなアプリを自分で開いて、自由に遊ぶ。 →タブレット使用表やタイマーを用いて順番・時間などの約束を守って使うことができるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマーが鳴ったら、iPad を教師や次の友達に渡す。 →必要に応じて次の活動を伝えたり、学級での約束を確認したりして活動の切り替えを促す。
--	--

[5 成果と課題]

成果

- ・いつも同じ場所にタブレット端末を置いたことで、登校してすぐに有無を確認したり、自分で準備片付けをしたりすることができた。
- ・今誰が使っているのか、次は誰なのかを表にして可視化したり、その表やタイマーを自分で操作したりしたことで、約束を守って友達とタブレット端末を使う姿がみられた。
- ・学級で扱うアプリを一つの画面にまとめたことで、ほとんど一人で操作できていた。

課題

- ・タブレット端末を使う児童が固定化しており、タブレット端末に対する興味を引き出せるような提示の仕方を考える必要がある。併せて、タブレット端末以外の物で十分に余暇を楽しむことができる児童に対するタブレット端末の使用についても検討したい。
- ・貸し借りに関する友達とのやりとりの場面におけるコミュニケーションを深めたい。
- ・タブレット端末を使う時間の見通しや活動の切り替えが難しい場面があり、経験を重ねる中で学んでほしい。

○めざす主体的な姿に関わる成果と課題

- ・タブレット端末を借りたいことを教師に伝えたり、「今できる？」と使ってもいい時間を気に掛けたりできる児童の姿がみられた。
- ・友達がうまく操作できないときに、隣で使い方を教える姿がみられた。また、普段は一人遊びがほとんどの児童たちが一つのタブレット端末を共有して一緒に遊ぶ姿がみられた。
- ・教師の声掛けがないと時間が来ても片付けや交代をせずに遊び続けたり、つい友達のタブレット端末に手が出てしまったりする児童もいる。継続して扱っていくことでの児童の変化を期待したい。

[6 その他]

小学部 生活単元学習 単元題材名「作った作品で 遊ぼう」 授業者名 藤原 綾子、三浦弘恵

[1 対象児童生徒]

- ・小学部 1年 男子 2名
- ・障がい名：自閉症、精神発達遅滞
- ・タブレット端末に関わる実態

タブレット端末を使用しての授業は、本時が初めてである。2人とも、家庭では、タブレット端末を使用してゲームをしたり動画を見たりして楽しんでいる。

[2 ねらい (本時)]

○めざす主体的な姿

- ・動画作りをやりたいと発言することができる。
- ・自分から進んで動画作りに参加する。

- ・アプリを使用してのタブレット端末の楽しみ方の幅を広げる。
- ・「ストップモーションスタジオ」を使った動画の作り方を知り、楽しみながら取り組むことができる。

[3 使用したアプリ]



- ・ストップモーションスタジオ (無料)



コマ撮りで動画を作成できる。カメラ機能の延長として、撮った画像を自動で動画にできるので、取り組みやすいアプリである。

[4 学習の様子] 学習の形態 (集団・個別)

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none">○「海の生き物」をテーマに作ってきた作品 (いか・たこ・魚など) の振り返り<ul style="list-style-type: none">・教師が作品を提示する。○タブレットの紹介・動画の作り方の説明<ul style="list-style-type: none">・教師が、アプリ「ストップモーションスタジオ」を実践しながら、アプリの紹介や動画の作り方を説明する。・被写体を細かく動かすことをポイントに伝える。

<p>展 開</p>	<p>○動画作り①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人10回ずつ作品の「海の生き物」を動かす（撮影は教師が行う）。 ・少しずつ動かすように注意する。 ・写真を撮っている間は、作品を動かさないように声掛けをする。 ・動画の作り方が分かり、楽しめるようになるまでゆっくり進める。  <p>○動画作り②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交代で一人5回ずつ2セット海の生き物の模型を動かして作品を作る。 ・友達の動きに注目できるように交互に行う。 ・慣れてきたら、児童が撮影をする。 
<p>まとめ</p>	<p>○できあがった動画の鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作った動画を見て楽しむ。 ・それぞれの頑張ったことを教師が紹介する。

[5 成果と課題]

成果・自分たちが作った動画を映像で見ることで、より楽しむことができた。

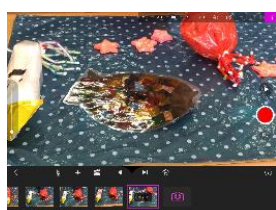
- ・実際にストップモーションスタジオで作った動画を見せたり、教師が作り方の見本を提示したりしたことで、「すごい！ 僕もやりたい！」などの意欲的な声が聞かれた。また、自分からタブレット端末を操作しようとする主体的な姿が見られた。

課題・少しずつ動かすことが難しかった。教師の指示が多くなり、活動の自由度が減ってしまった。

[6 その他]

- ・家庭では、タブレット端末でゲームや動画の視聴をしているので、授業でもタブレット端末を前にしてゲームがしたくなるかと思っただが、動画作りに集中して取り組むことができた。
- ・児童たちが「ストップモーションスタジオ」での動画作りに興味をもつ様子が見られたので、今後自分たちが作った作品を使用しての動画作りにも取り組んでみたい。

<動画の一部画像>



小学部 日常生活の指導 単元題材名 「朝の会をしよう」「欲しいものを伝えよう」

授業者名 北條真聖

[1 対象児童生徒]

- ・小学部2年生 女子
- ・広汎性発達障害。発語なし。主なコミュニケーション手段はクレーン。
- ・家庭でタブレット端末を使っているが、Youtubeなどの動画を見るのみでコミュニケーションツールとして使っていない。充電が切れると怒ってタブレット端末を投げる。

[2 ねらい]

- ・タブレットを使うことで、自分の気持ちを伝えられることを知ってほしい。
- ・自分から係の仕事に取り組んでほしい。

○めざす主体的な姿→・タブレットを使いたいと教師に伝えることができる。

- ・タブレットの使い方が分かり、自分から操作して気持ちを伝える。
- ・タブレットを使うことで自分から活動に取り組む。

[3 使用したアプリ]

vocaco



[4 学習の様子] 学習の形態（集団・個別）

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会の当番活動で、学級の友達全員の健康観察を行うことを確認する。 →・当番であることが分かるように当番カードを提示する。 ・健康観察をすることが分かるように次第カードを提示する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の目の前に行き、友達の名前を呼ぶ。 →・誰の前に行けば良いか分かるように友達の写真を提示する。 ・友達の写真をタッチして健康観察の音声を出す。 ・隣の友達にどんどん続けていく。 →・隣の友達が誰か分かるように、顔を見るよう促す。 ・顔写真を選んでタッチするよう促す。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の友達まで健康観察が終わったら、教師にタブレット端末を渡す。 →当番活動の続きを促す。

※「朝の会をしよう」のみ。

※「欲しいものを伝えよう」は業間等の休み時間に随時行っている。

[5 成果と課題]

成果：・欲しいものの画像をタッチして音声ガイドで伝えられることで、相手が取ってほしいものを間違えることもなく、気持ちを伝えることができた。

- ・今まではほぼ教師主導だった健康観察で、自分から進んで取り組む様子がみられた。
- ・楽しみながら活動に取り組む様子がみられた。

課題：・児童がより自分の力だけで操作できるようにしたい。

- ・「気持ちを伝える」という点では、児童の身近にタブレットを置き、いつでもタブレットを使って気持ちを伝える手段にできるようにする環境、工夫が必要。

○めざす主体的な姿に関わる成果と課題

成果：・繰り返すことで自分からタブレットを使おうとする姿がみられた。

- ・今まではほぼ教師主導だった健康観察で、自分から進んで取り組む様子がみられた。

課題：・児童がより自分の力だけで操作できるようにしたい。

- ・児童の実態、普段の様子等をより観察し、どのような場面でタブレットを使うと自分から気持ちを伝えやすくなるのか調査、実践していきたい。

[6 その他]

- ・授業としてではなく、休み時間の余暇活動で取って欲しいものを教師に頼む活動も行っていった。

小学部 単元題材名 日常生活の指導「掃除をしよう」「終わったら報告しよう」

授業者名 喜多山 順子

[1 対象児童生徒]

- ・小学部 5 年重複障害学級女子児童
- ・表出言語はほとんどない。意思表示は返事や喃語、ジェスチャーや指さし、動作など。
- ・絵カードや写真カードが好きで、日常的に使うカードを理解している。

[2 ねらい]

- ・モップ掛けや雑巾掛けの回数が分かり、見通しをもって取り組む。
- ・終わったら「終わりました」と報告することができる。

○めざす主体的な姿→タブレットの操作に関心をもちながら、掃除に見通しをもって意欲的に取り組んでほしい。さらに終わったら「終わりました」と報告することも楽しみながら行ってほしい。

[3 使用したアプリ]

- ・絵カードカウンター  ・ vocaco 

[4 学習の様子] 学習の形態（集団・個別）

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
導 入	掃除のあいさつ：雑巾とタブレットを提示する。 ・「絵カードカウンター」を用いて、雑巾掛けの回数を伝え、手本を示す。
展 開	雑巾掛け 3 往復 ・所定の場所まで雑巾掛けをしたら、タブレット「絵カードカウンター」にタップし、「あと 2 回だね」と確認する。 ・同様に 3 往復する。 ・ゴール地点に「vocaco」を設置し「終わりました」のカードをタップする（よう支援する。）
まとめ	掃除の反省 ・教室がきれいになったこと、3 回雑巾掛けができたこと、報告ができたことを褒める。

[5 成果と課題]

- ・写真や効果音に興味を示し、声掛けのみで指示したときより、反応も良く、行動に移すことも早くできたこと。
- ・タブレットでの指導は、特別感を得やすく、意欲的に取り組むことができた。
- ・うまくタップできないところもあり、一人で操作するためには練習が必要。

○めざす主体的な姿に関わる成果と課題

- ・楽しみながら取り組むことはできた。
- ・視覚的にもわかりやすく、意欲につながった。
- ・一人ではまだ操作できないので、経験を積んでいくことが必要。

[6 その他]

- ・遊びやゲームのアプリで操作になれる経験もしていきたい。
- ・帰りの会では、一日の振り返りをタブレット（写真や動画）で行っているが、クラスの児童は興味深く見ている。今後もできるところから授業に活用し、使用に慣れさせていきたい。

[1 対象児童生徒]

- ・小学部1年2組、男子3名
- ・脳性麻痺、自閉症、ダウン症。3人とも発語が少ないが内言語は持っており、テレビの映像はよく見ている。家庭で携帯ゲーム機を使っている児童はいるが、タブレットに触れた経験はあまりないと思われる。

[2 ねらい]

- ・タブレットの画面に触れると、音が鳴ったり映像が動いたりすることに慣れる。
- ・自分から画面に触れて線を描いたり、交換部品のボタンを選んでタッチしたりすることができる。
- ・順番を守って操作することができる。
- ・みんなでタブレットの画面を見て、楽しさを共有する。

○めざす主体的な姿→「さわってみたい」「やりたい」と、自分から手を伸ばしてくる。
友達が作ったピタゴラルートを、みんなで見合って楽しむ。

[3 使用したアプリ]

・ピタゴラン



・あいうえおにぎり



[4 学習の様子] 学習の形態（集団・個別）

ピタゴラス（集団）

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・3人の机を合わせて、学習の始まりの挨拶をみんなで行う。 ・教師のタブレットに注目し、画面のアプリを代表がタッチして開く。 →アプリボタンは、教師が誘導して知らせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が操作するのを見る。 →3つの机の中央付近にタブレットを置き、見やすいように席を移動する。 ・一人ずつ順番に、ルート作りや部品交換をして、「スタート」ボタンをタッチする。 ・みんなで見合う。 →途中のイベントやゴールで声がけしながら、楽しい雰囲気を作る。 ・ルート作りをした児童が「こわす」ボタンをタッチして消去し、次の人に交代する。 →消えるところも、教師と一緒に驚いて盛り上げる。 →次の人に譲るように声掛けをする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・二巡したら、終了する。 →最後のルートが消去されたら、また遊ぼうと声掛けしてタブレットを閉じる。 ・終わりの挨拶をみんなでする。

[5 成果と課題]

成果： 子供たちが好きな「ピタゴラススイッチ」をテーマにしたアプリのため、興味を持たせることができ、自分もやってみたいという姿勢がみられた。同じルートでも繰り返し見ており、タブレットは楽しいという気持ちをもたせることができた。

課題： 3人の活動なので大きな画面で見るためにテレビに映像を映すことも考えられるが、手元の操作と画面が離れることで、同じ物を見ているという感覚が薄れないのか疑問に思う。3人で同じ物を見ているという感覚も大事にしたい活動である。

〇めざす主体的な姿に関わる成果と課題

- ・タブレットに自分から触って、音が鳴ったり画面が変わったりするのを楽しんでいる。
- ・部品交換ボタンを自分で選んでタッチすることができた。
- ・「こわす」ボタンをタッチすると煙の絵が出てルートが消えることが分かり、一人で消去できるようになった児童がいる。
- ・小さな画面だが、みんなで頭を寄せ合って見合い、同じタイミングで笑うことができた。
- ・長いルートを作るためには、画面をタッチし続けなければならないが、すぐ手を離してしまうことが多い。
- ・回を重ねるにつれ長いルートを作る児童が出てきたが、なかなか友達と交代しただがらなくなった。

[6 その他]

小学部 自立活動 単元題材名 「数えてみよう」

授業者名 佐藤 信也

[1 対象児童生徒]

- ・小学部3年生 男子

[2 ねらい]

- ・アプリの視覚的变化と音声の読み上げ機能で数えることの確実性を増す。

○めざす主体的な姿→・数え間違いがあった時に自分で気づき、修正して数える。

[3 使用したアプリ]

- ・かずタッチ



[4 学習の様子] 学習の形態 (集団) 個別)

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
導入	・数えてからスクリーン上の「●」にタッチし、読み上げ音声で会っているか確認する学習の進め方を確認する。
展開	・タッチしてから数えた場合は注意を促す。 ・間違えた場合は読み上げ音声のとおり正しく言い直す。
まとめ	・数え間違えたところを再度行って確認する。

[5 成果と課題]

- ・タブレットを使用する活動はゲーム感覚があるので、比較的気楽に取り組めるようだ。
- ・視覚的にはタッチした「●」が消え、同じものを2度数える間違いが防げ、読み上げ機能で自分の数えたものの正誤が確かめやすい。

○めざす主体的な姿に関わる成果と課題

- ・間違いがあったときに読み上げられた正しい数から、修正して数え続けることは使用経験の少なさもあってこれからの課題である。

[6 その他]

小学部 算数 単元題材名「なんばんめかな？」

授業者名 小田島 薫

[1 対象児童生徒]

- ・ A児・・・小学部2年 脳室周囲白質軟化症

麻痺のため、上肢の動きのコントロールが難しい。特に、右手の麻痺が強いため、左手を使うことが多い。見え方にも困難さがあるため、遠くにあるものを把握できなかったり、近くのものでも見落としがあったりする。タブレットを使用する場面では、指示された場所を正確にタップすることが難しいことがある。

- ・ B児・・・小学部3年 福山型筋ジストロフィー

手先は器用であるが、筋力が弱いため、力を必要とする動作は難しい。飽きやすく、一つの活動に集中できる時間が短い。タブレットを使用する場面では、使い方に慣れると一人で操作することができる。

[2 ねらい]

- ・ 数を図形的なイメージで捉える力を伸ばす。
- ・ 上・下や前・後ろ、左・右という方向や位置に関する言葉と数を用いて、ものの位置を表すことができる。

○めざす主体的な姿→

- ・ 「左（右）から○番目」という順序数の表現方法を使うことができる。
- ・ 複数の物を見て、だいたい何個くらいあるか、どちらが多いかなどをイメージできるようになることで、生活の様々な場面で、必要な分あるかないか、どちらが多いか等を自分で判断し、行動することができる。

[3 使用したアプリ]


- ・ keynote



- ・ ならべ10



[4 学習の様子] 学習の形態 (集団・個別) * 個人で使う場面もある

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
導入	1. 始めのあいさつ 2. フラッシュカード (keynote) に示されている絵、図形の数を答える。 3. 学習内容の確認
展開	4. どこに入っているかなゲームをする (1) 1人が、6つの扉付きケースの1つの部屋に、ドーナツ模型を1つ隠し、その部屋を「右（左）から○番目」と相手に伝える。  (2) もう1人は、ドーナツ模型があると思う部屋の扉を開け、ドーナツがある

	<p>かを確認する。ドーナツが入っていれば、そのドーナツをもらえる。</p> <p>(3) (1) (2) を立場を変えて順番に繰り返す。</p> <p>(4) 最後に自分の持っているドーナツの数を数え、相手のドーナツの数と比べる。</p> <p>5. アプリ「ならべ10」で、「右(左)から〇番目」の問題に取り組む。</p>
まとめ	<p>6. 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>7. 終わりのあいさつ</p>

[5 成果と課題]

〇めざす主体的な姿に関わる成果と課題

成果

- ・フラッシュカードを使つての数の確認を継続的に行うことで、2名とも5までの数については、数えなくてもいくつあるかを答えることができるようになってきた。A児については、10までの数についても答えることができた。
- ・「左(右)から〇番目」という順序数での表現のし方が分かり、まだ正確ではないが、授業の中では表現できるようになってきた。

課題

- ・フラッシュカードに使っている絵や図形の種類を増やしていくこと。
→フラッシュカードの作成にもっと便利なアプリがあれば…
もしくは、keynote にネット上の絵をコピーして貼り付けられれば…
- ・順序数の表現について般化させていくこと。
- ・「ならべ10」のアプリは、1対1での活用はできそうであるが、一度に2人を指導するには適していないと感じた。2人を指導する場合には、具体物やプリントで、同じ問題に取り組んだ方が効果的だと感じた。(今の段階では…)

[6 その他]

- ・タブレットのタップしたい場所を正確にタップすることが難しい児童が、タブレットを上手に扱うことができるような補助具などがあるのか。

教科領域名 単元題材名 生活単元学習の指導「〇×クイズをつくろう」 授業者名 菅野美瑛 熊沢太地


[1 対象児童生徒]

中学部1年 13名

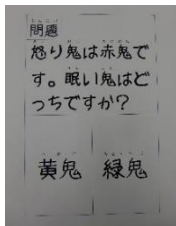
[2 ねらい]


- ・校外学習の事前学習として、行き先である施設に関連する調べ学習をする。
- ・検索サイトの使い方を知り、必要な情報を引き出す学習をする。

[3 使用したアプリ]

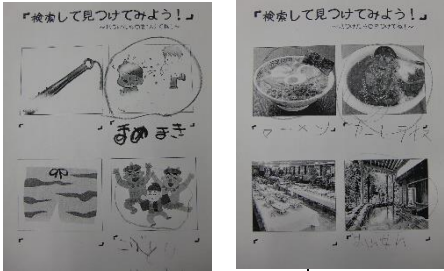
〇×クイズメーカー 

[4 学習の様子] 学習の形態（集団）

	学習活動	生徒の興味・関心・意欲	主体性を促す支援	タブレット端末を活用した具体的な支援
導入	学習内容を知る	・〇×クイズを作りたい	・教師が実際に作成した〇×クイズを見せて意欲付け	・校外学習のきまりに関する〇×クイズを見せ、同じように作成することを確認する。
展開	iPadの使い方、検索サイトの使い方を知る	・問題の答えを知りたい	・答えが知りたくなるような問題を提示	・基本的な操作方法、検索方法を提示する
	グループごとに問題を選ぶ（決める）	・検索して調べてみたい	・興味を持てるような問題をいくつか提示	・必要に応じて画像の保存方法を提示する。
	グループごとに問題の答えを検索する	・みんなが解けない問題を作りたい		
まとめ	調べた問題とその答えを用紙に	・自分でも作ってみたい	・検索方法を教え、協力して活動ができる支援	・調べた問題とその答えを目の前で教師が〇×クイズ

<p>記入し、それが〇×クイズゲームになる方法を知る</p> <p>発表 グループごとにiPadを操作して作成したクイズを出題する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・またクイズを作ってみたい ・他のグループの問題に興味深かった 	<p>支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の学習に活かせるよう意欲付け 	<p>メーカーに入力する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadとテレビをつなげて、作成したクイズを出題する。学習の成果をみんなで見合う。
---	--	---	---

3 生徒のニーズに応じたタブレット端末の活用の手立て

生徒の実態	困難を生じる背景	支援の方向性	iPad活用の手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名や片仮名が読めない(文字から情報を探すことが困難) 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚認知 ・注視する ・語彙力 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大 ・検索対象を画像にする(画像のマッチング) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ズーム機能 ・動画の活用

[5 成果と課題]

成果

- ・初めてのタブレット端末を使用した授業で操作に不安があった生徒もいたが、位置を認識してタップ操作をしたり、教師と一緒に文字入力をする事ができた。
- ・〇×クイズメーカーを使った操作の練習で、タップして音が出る経験をし、自分が操作したことを実感できた生徒もいた。
- ・検索をして知りたい情報を得ることができると知り、後日、自主的に検索をし、調べ物をしている姿を見た。

課題

- ・検索サイトに検索ワードを入力するまでは良かったが、ヒットした画像のみで解決しようとする事が多く、文章を読んで探す調べ学習の基礎がまだできていないように思えた。文献などを使った調べ学習で基礎を作っておく必要があった。

教科領域名 単元題材名 前沢の春を伝えよう 授業者名 有原 菜穂子

[1 対象児童生徒]

中学部2年 15名

[2 ねらい]

- ・春を楽しむ。
- ・近隣の施設や観光地について知り、利用方法やマナーを学習する。
- ・友達と協力して集団行動や表現活動を体験的に学習する。

[3 使用したアプリ]

- ・カメラ  ・Magisto  ・ひなぎく 

[4 学習の様子] 学習の形態 (集団・個別)

《第1時》

☆授業の目標 (ねらい) のなかでタブレット端末を活用した手立て

	学習活動	生徒の興味・関心・意欲	主体性を促す支援	タブレット端末を活用した具体的な支援
導入	学習内容を知る	・1年生に春を伝えたい	・ビデオを作成する動機付け	・昨年度の学習の写真を提示し、学校周辺の春を探すことができたことを確認する。
展開	係分担を決める	・プロモーションビデオを作ってみたい ・レポーター・カメラマンをやってみたい	・どのように作ったらよいか見通しがもてる支援	・教師が作成したプロモーションビデオを見せる。
	グループごとにシナリオを考える ビデオ撮影	・楽しいビデオを作りたい ・上手に撮れたかな ・別のアングルで撮ったらどうかな	・協力して話しあいや活動ができる支援 ・解決の方法や表現方法の追求の見通しがもてる支援	・基本的な操作方法・効果的な撮影の方法を提示し、撮影の工夫につなげる。 ・撮影した動画をみんなで見、学習を振り返る。
まとめ	振り返り	・友達の〇〇が良かった。 ・次は〇〇をやってみたい	・学習したことを次の学習に活かす意欲づけ	

☆生徒のニーズに応じた iPad の活用の手立て

生徒の実態	困難を生じる背景	支援の方向性	iPad 活用の手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・見えにくい ・注視するのが難しい ・言葉が不明瞭 ・発語がない ・話すことや操作に自信がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・視力 ・眼球運動 ・注視 ・難聴 ・語彙数 ・経験不足・不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大する ・注意を引く ・音声を聞きながら一緒に話す ・録音した音声を流す ・不安の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真のズーム ・動画を活用する ・アプリ「ひなぎく」の使用 ・音声機器として動画を再生する ・その場で確認する ・何度も撮り直しをする

《第5時》

	学習活動	生徒の興味・関心・意欲	主体性を促す支援	タブレット端末を活用した具体的な支援
導入 展開 まとめ	学習内容を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生やみんなにどのように伝えたいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを編集する動機付け ・どのようにしたら効果的に伝わるか考える支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の春を探ることができたことを動画で確認する。
	アプリで様々な音楽やエフェクト等で編集できることを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・素敵なプロモーションビデオを作ってみよう ・かっこいいプロモーションビデオを作ってみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように作ったらよいか見通しがもてる支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が作成したプロモーションビデオを見せたり、アプリを開いて編集の仕方を見せたりする。
	グループで話し合いながら好きな音楽を選択し、ビデオを編集する	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな曲をつけたい。 ・春が伝わるにはどうしたらいいかな 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力して話しあいや活動ができる支援 ・解決の方法や表現方法の追求の見通しがもてる支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影した動画をみんなで見て、学習を振り返る。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の〇〇が素敵だった。 ・1年生やみんなに見せたい。 ・次は〇〇のプロモーションビデオを撮りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを次の学習に活かす意欲つけ 	

☆生徒のニーズに応じた iPad の活用の手立て

生徒の実態	困難を生じる背景	支援の方向性	iPad 活用の手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・見えにくい ・注視するのが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・視力 ・眼球運動 ・注視 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大する ・注意を引く 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真のズーム ・動画を活用する

[5 成果と課題]

成果

- ・動画撮影や動画編集をグループで行うことで、選択活動や役割分担、工夫して表現活動することなどを楽しみながら経験し、主体的に活動する姿が見られた。

～～ 感想 ～～

《頑張ったこと》

- ・レポーターをしたときに丁寧にしゃべることをがんばりました。
- ・撮影の時の立ち位置を工夫しました。
- ・〇〇君にワークシートをカメラの前でもってもらいながらしゃべりました。
- ・iPad をもつのが緊張した。

《どのようなプロモーションビデオを作りたいですか》

- ・電車を撮影したいです。
- ・ジオラマ撮影。
- ・さくらをきれいに撮りたい。
- ・アクションを取り入れて撮影をしたい。
- ・昆虫の動画を作りたい。
- ・インタビューみたいなプロモーションビデオを作りたい。

課題

- ・ ネット環境が悪く、用意していた学習ができない状況があった。ネットが繋がらないことを想定して、学習の準備をしておくが良い。
- ・ ビデオ撮影の音声小さく、動画編集アプリでは音声として認識されず、編集することができなかった。学部集会では編集していないものを見せて対応した。
- ・ 肢体不自由の生徒が音声器機として iPad を使用したが、スイッチを押したことを感じ取ることが難しい。iPad タッチャーがあると良い。
- ・ 好きな音楽やテンプレートなどについて自己選択・自己決定をすることができる良い機会であったが、選択肢が多すぎて決められない生徒もいた。既存のアプリをそのまま活用するのではなく、生徒に合うようにある程度枠組みを作っておくと良かった。(例：Movie Star に BGM を数曲のみダウンロードしておき、その中から選ぶようにするなど)

[6 その他]

教科領域名 単元題材名 校外学習に行こう！！ 授業者名 皆川 桂輔

[1 対象児童生徒]

中学部2年 15名

[2 ねらい]

- ・公共施設の利用の仕方やマナー、及び集団行動について学習する。
- ・交通機関を実際に利用し、経験を積む。
- ・お土産について学び、自分の物、家族の物をお土産として選んで買うことができる。

[3 使用したアプリ]

- ・カメラ 
- ・Keynote 
- ・グーグルアース 

[4 学習の様子] 学習の形態 (集団・個別) 《全22時間》

《第1～2時》

☆生徒の興味・関心・意欲を高めるためのiPadの手立て

	学習活動	生徒の興味・関心・意欲	主体性を促す支援	タブレットを活用した具体的な支援
導入	学習内容を知る。 ・自分たちの学校の場所、校外学習の行き先、日程を確認する。	・「どんなことをやるのか」「どこに行くのか」	・音楽を活用する。 ・視覚、聴覚を刺激するようなプレゼン方法	・Keynote を使ってプレゼンテーションを作る。 ・グーグルアース使用 地球→学校 地球→行き先
展開	個人目標、グループ目標を決める。 ・教師がiPadで発表し手本を見せる。 グループの名前、由来を決める。 ・グループ毎にインターネットでグループの名前、由来を決める。	・「どんな目標が良いだろう」「どんなグループだろう」 ・「かっこいい、かわいいグループ名にしたい」	・教師のワークシートを見本としてテレビに映しておく。 ・調べる範囲を狭め、時間を決める。	・プレゼンテーション中にスライド上に描画する。注目させたいところには線や○を描く。
	個人目標、グループ目標、名前の由来の発表。 ・発表者、iPad操作係をグループ毎に決める。iPadを用いて発表する。	・「ipadの操作をうまくやってみよう。」	・分かりやすい発表の仕方やiPadの操作を教師が示範する。	・ipadとテレビをHDMIケーブルで繋いだ。(プレゼンはAppleTVが使えると良い) ・カメラでワークシートを撮影する。
まとめ	振り返り ・生徒の発表の仕方、iPadの操作で良かった点を発表する。	・「次の時間もipadを使いたい。」	・生徒の発表の仕方、ipadの操作の仕方でも良かった点を発表する。	・拡大(ピンチアウト)縮小(ピンチイン)することで他の人が見えやすい、わかりやすいことをやって見せる。

生徒の実態	困難を生じる背景	支援の方向性	iPad 活用の手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・見えにくい ・注視するのが難しい ・聞き落としがある ・発語がない ・話すことや操作に自信がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・視力 ・眼球運動 ・注視 ・難聴 ・語彙数 ・経験不足・不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大する ・縮小する ・注意を引く ・写真や絵で提示 ・写真や絵の選択 ・不安の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラの使い方 ・写真のピンチアウト、ピンチイン 効果音 ・Keynote でのプレゼン ・写真を用いた発表 ・何度も操作を繰り返す ・カメラ機能

☆生徒のニーズに応じた iPad の活用の手立て

[5 成果と課題]

成果

- ・教師の iPad を使ったプレゼン方法が「何が始まるのだろう」という生徒の期待感、意欲や関心をもつ様子が見られた。
- ・生徒が iPad で拡大（ピンチアウト）や縮小（ピンチイン）を使って、他の人が見えやすいように工夫することができた。
- ・自信をもって iPad を操作することができた。
- ・最初は iPad を使うことに不安があったが、だんだん使用するうちに慣れて誰でも使えるようになった。

課題

- ・インターネットを使う際に、範囲や時間を最初から決めていないと情報量があり過ぎて、なかなか決められない生徒がいた。

[6 その他]

- ・校外学習や宿泊学習等で iPad の持ち出しが可能であれば、学習の幅が広がる。

教科領域名 単元題材名 生活単元学習「修学旅行に行こう」 授業者名 菅原 麻耶


[1 対象児童生徒]

- ◎ 中学部 3年 9名
- 自閉症、ダウン症、広汎性発達障害、精神発達遅延
 - ・ 平仮名を書けない（分からない）。ローマ字が分からない。
 - ・ 視力が悪い

[2 ねらい]

- ・ ディズニーランドで乗りたい（見たい）アトラクションや食べたいものについて調べる。

[3 使用したアプリ・道具]

- ・ Safari 

- ・ iSmartCopy（無料）：iTunes を使わずに PC から iPhone へ写真を転送するために使用
- ・ ライトニングコネクタ USB メモリー
- ・ Apple TV



[4 学習の様子] 学習の形態 (集団) 個別)

学習活動	生徒の興味・関心・意欲	主体性を促す支援	タブレット端末を活用した具体的な支援
導入	・ 学習内容を知る。 ・ ディズニーランドは楽しそうだな。	・ ディズニーランドへの関心がもてる動機付け。	・ 昨年度の修学旅行の写真を提示する。
展開	・ グループ毎にディズニーランドで乗りたい（見たい）もの、食べたいものについて調べる。 ・ ディズニーランドで乗りたい（見たい）アトラクションについて調べたい。 ・ ディズニーランドで食べたいものについて調べたい。	・ インターネットで調べるにあたっての方法や手順等、調べ学習の見通しがもてる支援。 ・ 個の考えや友達の考えを共有する場の確保。	・ インターネットを利用して、見通しがもてる画像・動画を提示する。 ・ カメラ（スクリーンショット）の機能を使って、写真を保存（印刷）し、乗りたい（見たい）もの、食べたいものについて整理する。
まとめ	・ グループ毎に発表をする。 ・ 学習したことをみんなに伝えたい。	・ 自分のグループの活動について表現する時間や他のグループの活動について知る時間の確保。	

生徒の実態	困難を生じる背景	支援の方向性	iPad 活用の手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・見えにくい。注視するのが難しい。 ・一人で操作できない。 ・ローマ字入力ができない。 ・平仮名入力ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視力。眼球運動。 ・未学習、経験の少なさ ・ローマ字が分からない。 ・音声と平仮名が一致していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad を使って顔（目）に近づけて見る。 ・グループで1台使い、操作の仕方など助け合い（相談）ながら進める。 ・平仮名入力の設定に変える。 ・文字入力→音声表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画の活用 ・必要な情報の場面で、確認しながら、活動に参加する。 ・キーボードの日本語仮名入りに設定する。 ・音声入力

【5 成果と課題】

成果

- ・グループで1台使用することで、できる子だけが一人で勝手に進めることなく、同じペースで調べ物学習をすることができた。
- ・iPad が使い慣れない子に対して、使い方が分かる子がやり方を教えながら進めていた。
- ・グループで1台使用することで、「自分が操作したい」という欲求が強いグループもあったが、順番を守る等のルールや約束を守る学習にもなると思った。
- ・スクリーンショット機能を使って乗りたい(食べたい)ものについて写真を撮った。ホームボタンと電源ボタンを同時に押すことが難しい生徒には、アクセシビリティで「Assistive Touch」機能（iPhone の画面上に Assistive Touch ボタンが常時表示され、ボタンをタップすると、スクリーンショットができる）を使うことで、ワンタッチでスクリーンショットすることができた。→【個への支援】また、何度か取り組むことでできるようになった生徒もあり、Assistive Touch 機能を使わなくてもできることへの達成感が感じられた。→【主体性】

課題

- ・ローマ字入力が難しい生徒にはひらがな入力を、ひらがな入力が難しい子で話すことができる生徒には音声入力をさせたかったが、学校の iPad では対応しておらず、音声入力できなかった。→履歴に入れておいて対応した。
- ・スクリーンショットした画像をその場で印刷するように進めたかったが、前回行ったときに印刷機が固まったりしたため、教員の方で印刷した。（また、印刷できるサイズが A4 または L 版のみ）

【6 その他】

- ・SV の中に入っている写真データを、ライトニングコネクタ USB にコピーし（iSmartCopy のアプリを使用して iPad に繋ぐ）、Apple TV で画面に映し出すことで、パソコンを持ち歩いて LAN ケーブルを繋がないでも、写真を映し出すことができた。操作場所が固定されないし、パソコンを持ち歩く手間もかからないので、便利だった。

高等部2年進路学習1グループ 働くために必要な力～履歴書を書いてみよう～ 授業者 大和田志野

[1 対象児童生徒]

- ・高等部2年進路1グループ
- ・男子6人、女子4人の学習グループ。ほとんどの生徒が一般就労を希望している。
- ・知的障害のほか、自閉症やADHDの診断を受けている生徒もいる。集団での活動やコミュニケーションが苦手、授業に参加できない生徒がいる。

[2 ねらい]

- ・自分と他の生徒の良い点を見つけ、具体的に表現できる。

[3 使用したアプリ・機器]

- ・カメラ  AppleTV

[4 学習の様子] 学習の形態（集団）

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
導入	1 挨拶 指導者も含め、全員が姿勢・声の大きさ・礼を意識して行う。 2 前時の振り返りと本時の学習内容の確認 前回のプリントを見ながら学習内容を振り返る。本時の学習内容をプリントに記入する。
展開	3 他の生徒の自己PRを書く。 2～3人のグループを作り、PRを記入する相手を決める。相手のPRを発表する。自己PRと他の生徒から示されたPRを比較する。 【T2は、自己PRと他者からのPRを並べてiPadで撮影し、AppleTVを用いてテレビに表示する】
まとめ	4 自己PRと比較しての感想を発表する。 Tは自己評価と他者評価について助言する。 5 次時の学習内容の確認 6 挨拶 指導者も含め、全員が姿勢・声の大きさ・礼を意識して行う。

[5 成果と課題]

成果：自己PRと他者からのPRを一緒にテレビに表示したことで、比較が容易にでき、生徒も注目することができていた。

課題：今回の授業では、iPadやAppleTV、テレビなどの機器を職員が行ったが、可能なところは生徒が行うようにしたい。

[1 対象児童生徒]

- ・高等部 2 学年 スマートフォンを所持しているか、SNS に興味を持っている生徒
- ・実際に Line でのやり取りをしている生徒の中には、情報発信の仕方ですらトラブルにつながったケースもある。

[2 ねらい]

- ・SNS の使い方によって他人を傷つける可能性や、必要以上に情報を知らせることの危険性に気づく。

[3 使用したアプリ]

東京都教育委員会作成アプリ『こころストーリー』（無料）

- ・いじめや、SNS について 8 つのストーリーを通して考えるアプリ



[4 学習の様子] 学習の形態（集団）

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
導入	各自の iPad を準備する。 【事前に『こころストーリー』をダウンロードしておく】
展開	『こころストーリー』を開き、SNS やいじめについて問題提起されている 8 つのストーリーから、自分が興味を持ったものを読んでみる。 ・問題点はなにか、自分と似ているところはないか生徒に質問し、生徒自身が課題に気付けるよう支援する。 ・主人公の気持ちはどうだったか、生徒同士で話し合う。
まとめ	自由時間にいつでも『こころストーリー』を活用してよいことを伝える。

[5 成果と課題]

成果：物語風に進むため、マンガを読んでいるような気軽さで情報モラルについて知ることができた。

課題：実際にトラブルに発展した生徒は、ストーリーを読み進めても自分の行動や発信の仕方に関心があったと振り返ることができなかった。

[6 その他]

- ・対象生徒の iPad にダウンロードしてあるため、自由時間に随時閲覧することができる。

[1 対象児童生徒]

- ・高等部2学年
- ・自閉症。語彙は限られているが、自分の要求を言葉で伝えることができる。自宅では父から iPad を借りて、使用している。道路標識や「忍たま乱太郎」「0655」「2355」などの番組に強い興味を持っている。

[2 ねらい]

- ・ルールに沿って余暇活動を楽しむ。

[3 使用したアプリ]

- ・カメラ  ・Safari 

[4 学習の様子] 学習の形態（集団・個別）

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
導入	給食後の挨拶をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・給食を食べ終わっても、挨拶するまで席を立たない。 ・『みんなと一緒に挨拶、片付けをする』ことを約束し、約束が守れた時のみ iPad が使えることを伝える。
展開	「iPad を貸してください」と要求を伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・はっきりと要求できたときには、iPad を貸し出す。 ・「鍵を取ってくるので、待っててね」と、教室で待機するよう伝える。 ・約束が守れなかった時には、「約束が守れなかったね」と伝え、iPad を貸さない事を伝える。
まとめ	片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・予鈴が鳴ったら「時間なので片づけます」と伝え、片付けを促す。

[5 成果と課題]

成果：挨拶前に立ち歩きそうになった時に「約束だよ」と声掛けすることで、がまんすることができるようになった。

使用できない時や、Wi-Fi がつながらず動画が見られない時に、自分から「あきらめて下さい」と言って、気持ちを切り替えようとした。

課題：カメラで自分の顔や道路標識を撮っているときには、終わりの声掛けで片づけることができた。一方で、好きな動画を見ているときには楽しむというより固執してしまい、声掛けに対してイライラし、額打ちなど自傷行為につながってしまった。

[1 対象児童生徒]

高等部第2学年 24名（通常学級21名、重複障がい学級3名）

障がい名：染色体異常（ダウン症等）、精神発達遅滞、自閉症、発達障害（広汎性発達障害、LD、ADHD）等

タブレット端末に関わる実態

生活単元学習：調べ学習（Safari）、クラスマッチ（カメラ（撮影）、写真（振り返り））
発表場面でのプレゼン（Appie TV、パワーポイント）

進路学習：事業所見学等に関わる調べ学習（Safari、マップ）

スマートフォン所持率 4/24 人

[2 ねらい]

- ・写真を撮ること、それをつなげていくことを通してアニメーションとして表現する。
- ・制作を通し、個々にイメージを膨らませ、共有していく。
- ・表現することに委縮せず、楽しんで取り組むことができる。
- ・友達と相談しながら、グループとして取り組みを進める。

[3 使用したアプリ]



ストップモーションスタジオ

[4 学習の様子] 学習の形態 (集団・個別)

学習の流れ	主な学習活動と指導・支援の留意点
<p>導入</p>	<p>○本時の内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメーションを作ることを説明する。 <p>○教師が作ったアニメーションを見てイメージをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背景、対象物はわかりやすいシンプルなものにする。 ・移動や回転など、わかりやすい動きのつけかたを提示する。 ・残像（プレビュー）を活用する方法を伝える。
<p>展開</p>	<p>○ペアやチームを作りアニメーション作成をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を考慮して、教師がグループを指定する。 ・監督や役者、カメラマンなど役割をもって制作に取り組みさせる。必要に応じて、職員が入るグループを作り、アドバイスをする。



	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な操作を示し、さらに効果をつけたい場合はT1に聞くよう伝える。 (動きのスムーズさやBGMの挿入など) ・ 動きの確認や気づきを促すため、制作中も作品をプレビューで確認するよう伝える。 ・ 生徒から出てくるイメージをできるだけ本人からの言葉や表現(身振り・イラストなど)で引き出す。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の作品を全員で見合う。 ・ AppleTVを使って作品を投影し、全員で見られるようにする。 ・ 個々の作品について講評を行い、次への意欲付けをする。

[5 成果と課題]

成果・描くよりもイメージの表出が容易であり、抵抗なく取り組む生徒が多かった。

- ・ 基本の操作を示した後、「さらに効果をつけたい人は聞いてください」と伝えたことで、生徒が自発的にBGMの入れ方を質問したり、さらに見やすい作品になるよう工夫を加えたりすることにつながった。
- ・ タブレット端末でできることの理解が進み、より興味関心をもつきっかけとなった。

課題・単発での取り組みとなり、イメージを広げたり深めたりするきっかけ作りにとどまっている。

- ・ 撮影してもいいものといけないもの(許可を要するもの)についての説明が不足していた。
- ・ より詳しい操作の仕方が理解できると、主体的に取り組む姿が増えていくと感じた。
→例えば、うまく写真を撮ることができなかった場合の修正方法が分かれば、失敗を受け入れ難い生徒でも安心して取り組むことができる、など。

生活領域名 社会性 題材名：クリスマス会のオープニング動画をみんなで作ろう。指導者名 菊地孝子

[1 対象寄宿舎生] 全寄宿舎生

[2 ねらい]

- ・ 作品を作る中で表現する楽しさを知る。
- ・ 全員参加の動画を通じてクリスマス会の楽しさを共有する。

[3 使用したアプリ]

StopMotionStudio



AudioRec



[4 生活指導の様子] 指導の形態（集団）

（作成期間：3週間）

おおぞら会執行部で話し合い、執行部が中心となり作成を進めていくこととした。撮影は各棟の部屋単位で「クリスマス会はじまるよ～」を1文字ずつ分担し、BGMには有志の歌を録音し作品とすることとした。

生活指導の流れ	主な行動	指導・支援の留意点
導入	・ はじまりのあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品例の視聴。 ・ ポーズと動きの見本を示す。
	・ 内容の説明	
	・ 作る動画を相談する。	
	・ 撮影の役割を決める	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画作成の用意（サンタクロース衣装への着替え） ・ 映像の撮影 ・ 撮影時、合図を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 着替え補助 ・ 寄宿舎生のみ作業が難しいときは職員が手伝う。 ・ 動作が不安定な寄宿舎生がいた場合、職員が補助を行いながら撮影を進める。 ・ もし上げない時は職員が合図の指示を伝える。
	・ 撮影の終わりに合図の声を上げる。	
	まとめ	

[5 経過]

執行部の寄宿舍生はアプリの撮影方法を短時間で習得し迷うことが少なかった。各部屋での撮影では殆どの寄宿舍生が好んで参加していた。タブレット端末をよく見て作業に協力する様子が見られ、撮影が思った以上に円滑に進むことができた。

衣装へ着替えたことや自分たちでポーズを考えたことで興味が沸き、寄宿舍生がワクワクして撮影に臨んでいた姿がみられた。

[6 成果と課題]

成果

- ・ 作品ができた。
- ・ それぞれ作成しているときはどうなるか不安だったようだが、完成した動画を見て喜んでいた。
- ・ 執行部の寄宿舍生に活動を終えた後に感想を聞いたところ、「作成するのは面白かった」、「(できたものを見て) 恥ずかしかった」等色々意見が出された。

課題

- ・ 取り組み始めが遅れ構想を職員の提案で行った。構想を含めた期間の余裕を持つことで寄宿舍生が自らより考えて動くことができたのではないかと。
- ・ 職員が iPad に不慣れなこともあり、動作にうまく反映することができないことがあった。

[7 その他]

- ・ 寄宿舍生は StopMotionStudio の操作が覚えやすく使いやすいようである。クリスマス会のみならず他行事での活用も期待できる。
- ・ 集団で 1 台を使う場合、動画や写真、音楽等を挿入するためには手続きが必要だった。手続きがすでに行われている iPad があれば、寄宿舍生がより協力し作成できると考えられる。

生活領域名 生活指導 題材名 寄宿舍での生活を確認しよう 指導者名 千葉洋史

[1 対象寄宿舍生]

- ・男子棟 全寄宿舍生

[2 ねらい]

- ・オリエンテーション活動を通じて、寄宿舍での生活や日課、夏休みの過ごし方などについて確認することができる。

[3 使用したアプリ]

- ・Microsoft PowerPoint



[4 生活指導の様子] 指導の形態（集団）

- ・作成した資料を iPad 及び AppleTV を利用して男子棟ダイルームのテレビに映し、それを見ながらオリエンテーションを行った。
- ・昨年度末に「寄宿舍生の指導に有効だった」と反省が出されたため、今年度も継続して行った。
- ・当日は、帰省者を除く全員がオリエンテーションに参加した。

生活指導の流れ	主な生活行動と指導・支援の留意点
導 入	○オリエンテーションの内容について確認する。 ・日課の確認、係・当番分担の確認、長期休業中の過ごし方 etc. . .
展 開	○指導内容に沿って端末を操作しながら、オリエンテーションを進行する。 ・適宜、クイズなどを取り入れて寄宿舍生の興味や関心を引くようにする。 ・寄宿舍生の実態に応じ、クイズなどでは端末を直接操作し答えを選択してもらう。
まとめ	○オリエンテーションの内容を振り返る。 ・反応など様子を見ながら、重要なところは再度確認するなどして周知・徹底する。

[5 成果と課題]

○成果

- ・紙媒体と異なり、色や音などの刺激が付いたことで寄宿舍生の興味や関心を引きやすくなった。見るところも焦点化され、視線も集まっていた。
- ・クイズ形式等を取り入れることで、寄宿舍生が機器を操作でき、結果によって異なる画面を表示させることが容易である。
- ・データで保存することにより、紙と比べて劣化しにくく、また次年度以降の再利用も容易である。
- ・Microsoft PowerPoint を利用することで指導や説明の流れができ、指導内容が統一できる。

○課題

- ・文字の大きさ等、作成時の画面とはズレが生じる場合があるため、事前に一度確認が必要である。
- ・オリエンテーションの最中に機器の調子が悪くなった場合に備えて、補助資料を用意する必要がある。
- ・著作権等に問題のない範囲で音声、アニメーション、キャラクターの利用など、より興味・関心を引いたり伝わりやすかったりする方法を今後も模索し、資料の改善に努める。

[6 その他]

生活領域名 生活指導 題材名 就業体験中の寄宿舎生活を確認しよう 指導者名 千葉洋史

[1 対象寄宿舎生]

- ・男子棟 全寄宿舎生

[2 ねらい]

- ・オリエンテーションを通じて、就業体験中の寄宿舎での生活や日課について確認することができる。

[3 使用したアプリ]

- ・Microsoft PowerPoint



[4 生活指導の様子] 指導の形態（集団）

- ・作成した資料を iPad 及び AppleTV を利用してけやき棟ダイルームのテレビに映し、それを見ながらオリエンテーションを行った。
- ・昨年度末に「寄宿舎生の指導に有効だった」と反省が出されたため、今年度も継続して行った。
- ・「校内班」「校外班」の2グループに分かれ、それぞれオリエンテーションを行った。
- ・当日は、帰省者を除く全員が参加した。
- ・当日参加のできない寄宿舎生については、別日に時間を設け各担当で行った。
- ・当日端末を操作する職員と、進行する職員で役割分担をして行った。

生活指導の流れ	主な生活行動と指導・支援の留意点
導 入	<p>（・事前に、誰が「校内班」「校外班」に参加するのかを周知しておく。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめのあいさつをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者全員が集まったのを確認する。 2. 棟会の内容を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・今から行うことを口頭で再度確認する。 ・終了予定時間を伝える。（各 15 分）
展 開	<ol style="list-style-type: none"> 3. 実習に向けて気をつけることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ T 1 の指導に沿って T 2 職員が端末を操作しながら、オリエンテーションを進行する。 ・返答が可能と思われる内容に関して、時折質問したり挙手を求めたりする。 ・返答があったものに対して、それが合っているかどうか、他の寄宿舎生にも反応を求め、その後端末を操作し正答を全員で確認する。 ・端末の動作が停止した際には、関連した別な話題を提供して会話をを行い、端末の動作回復を待つ。
ま と め	<ol style="list-style-type: none"> 4. 振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・最後に指導内容を振り返り、再度実習に向けての意欲づけを図る。 5. おわりのあいさつをする。

[5 経過]

- ・はじめに集合した時点で、自然とテレビを前にして、それぞれ座ることができていた。
- ・オリエンテーションの始めに実習期間について生徒に質問をすると、それに対して挙手があったため、以降空欄があった際には生徒に質問することにした。
- ・答えがいくつか出た際には、生徒同士で話し合う様子も見られた。
- ・何度か動作が停止したが、その都度場を繋ぐような話題を提供したため、画面が動かなくなったことによ

り不安定になったりイライラしたりする生徒はいなかった。

- ・その場にいることができないことが予想された生徒数名には、いつでも職員が付くようにしたが、15分間その場にいることはできなかった。

[6 成果と課題]

○成果

- ・紙媒体と異なり見るところが焦点化され、視線が集まっていた。
- ・クイズ形式等を取り入れることで、一人一人が自分で考え、答える場面を設けることができた。
- ・データで保存することにより、紙と比べて劣化せず、また次年度以降の再利用も容易である。
- ・Microsoft PowerPoint を利用することで指導や説明の流れができ、指導内容が統一できる。
- ・当日参加できない生徒がいた場合、別日に同じ内容で行うことができる。

○課題

- ・文字の大きさ等、作成時の画面とはズレが生じる場合があるため、事前に一度確認が必要である。
- ・オリエンテーションの最中に機器の調子が悪くなった場合に備えて、補助資料を用意する必要がある。
- ・著作権等に問題のない範囲で音声、アニメーション、キャラクターの利用など、より興味・関心を引いたり伝わりやすかったりする方法を今後も模索し、資料の改善に努める。
- ・その場にいられない寄宿舎生への支援と資料作りの工夫が必要である。

[7 その他]

○iPad および AppleTV の不具合について

- ・オリエンテーションの最中、動作が停止することがあった。
- ・症状としてはPowerPoint のフリーズおよびミラーリングの接続切断の2つである。
- ・ミラーリングを手動で一旦切断し、再度接続すると回復することが多かった。
- ・原因としては、①PowerPoint の容量が大きい（アニメーション効果の量？） ②iPad 本体の処理能力の問題 ③ミラーリング・Bluetooth 等の電波による不具合 などが考えられるが、特定には至らなかった。

生活領域名 余暇活動

題材名：ギターを弾こう

指導者名：佐藤祐市

[1 対象寄宿舎生]

高1 男子生徒3名

[2 ねらい]

寄宿舎での余暇活動では散歩や体育館などでの簡単な運動が多く、器楽演奏等の同年代の子どもたちが興味を持って活動するものと同じような活動が用意できないでいた。実技指導の不足はあるが、子どもたちの自主性を捉えて活動できるように iPad の動画再生機能を用い楽器演奏の習得ができると考え取り組んだ

[3 使用したアプリ・機材]

iSmartCopy



USB メモリー（サンダーボルト～USB両用のもの）

[4 生活指導の様子] 指導の形態（集団）

・福祉の里まつりの発表会でギターを演奏したいので、教えて欲しいと依頼があった。寄宿舎にはギターを弾くことができる職員が2名いるが、交代勤務や他舎生への対応等から練習の確保ができない。こどもたちは、自主的に練習をしたい希望があることから、学習時間等にコードの練習を始め、各パートの弾き方を知ってもらう形から始めてみたところ、一週間ほどで自分のコードを押さえることができたことから、学習時間を利用し週1回程度 iPad を用いた合同演奏練習を開始した。iPadにはあらかじめ、musecoreにて作成した動画を iSmartCopy に保存しておいた。

生活指導の流れ	主な生活行動と指導・支援の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にギターの音を出してもらい、ずれがある場合は職員がメーターを用いて調音する。 ・楽譜をみて、各パートの音と色を確認する。 ・動画の再生方法を伝え、一度再生し内容を確認め合う。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ声の後に動画を再生し表示される演奏見本を追いながら、それぞれのギターパートを弾く。 ・繰り返し3回ほど行うことを奨める。 ・押さえ方の確認を必要に応じて行う。 上手くできた瞬間や音が出たときには合っていることを「いいね」と伝える。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の具合を3人に聞き、自己評価を出し合う。 ・「よかったところ」「がんばりポイント」を確認していく

[5 経過]

3人のギターを弾くことへの熱意は、空き時間に熱心に取り組む生徒や、弾く姿に夢を持ちながら弾こうとする生徒、友人と共に楽しみをしたい生徒など様々だった。3人のうちで誰かが弾く姿を見つけると、一緒にやってみようと思われ、弾く姿がよく見られた。取組はギターカラオケと言って生徒に伝え、練習の際に生徒も利用することで自分のパートが弾きやすく頼りにしてくれているようだ。「練習で使いたいののでギターカラオケを見せてください」と申し出ることもあり、回数が少なかったもののよく活用していた。次第に自分のパートを覚えるようになった頃に発表会となり、うまくギターを演奏することができるようになった。

[6 成果と課題]

- ・成果について、生徒の演奏したい気持ちと練習をしようとする自主性を尊重し、分かりやすく使える方法で作成し活用したことで、ギターを覚えながら楽しく活動できた。
- ・コードの押さえ方ができてコード表記への理解があった場合に、有効な方法である。

- ・アプリについて、PCで作成したデータをiPadに移して利用した。
- ・Muscoreはフリーソフトで配布されており、Windows, Mac他、多様なパソコンのOSで利用できることから、導入の敷居が低く捉えることができる。
- ・課題として、Muscoreの扱いに指導者は慣れが必要である。

[7 その他]

生活領域名 生活指導 題材名 避難訓練について確認しよう 指導者名 吉田央・小原由貴・高橋優子

[1 対象寄宿舎生]

- ・男子棟 全寄宿舎生

[2 ねらい]

- ・避難訓練の指導を通じて、寄宿舎での避難の仕方を学び、混乱なく避難訓練に参加することができる。

[3 使用したアプリ]

- ・Microsoft PowerPoint



[4 生活指導の様子] 指導の形態（集団）

- ・作成した資料を iPad 及び AppleTV を利用してけやき棟デイルームのテレビに映し、それを見ながらオリエンテーションを行った。
- ・昨年度末に「寄宿舎生の指導に有効だった」と反省が出されたため、今年度も継続して行った。
- ・事前指導と事後指導の両方において機器の使用、指導の流れを同様に行った。

①事前指導

生活指導の流れ	主な生活行動と指導・支援の留意点
導入	○避難訓練の実施について確認する。 ・日時、想定される災害の内容、避難経路、注意事項など
展開	○避難訓練の流れに沿って端末を操作しながら、避難の際の動きを確認する。
まとめ	○内容を振り返る。 ・反応など様子を見ながら、重要なところは再度確認するなどして定着を図る。

②事後指導

生活指導の流れ	主な生活行動と指導・支援の留意点
導入	○避難訓練の感想などを確認する。 ・寄宿舎生数名から感想を発表してもらう
展開	○事後指導の流れに沿って端末を操作しながら、反省点などを確認する
まとめ	○内容を振り返る。 ・反応など様子を見ながら、重要なところは再度確認するなどして定着を図る。

[5 成果と課題]

○成果

- ・紙媒体と異なり、動きが付いたことで寄宿舎生の興味や関心を引きやすくなった。見るところも焦点化され、視線も集まっていた。（説明する職員と注目するところが同じ方向にあるのがよい。）
- ・データで保存することにより、紙と比べて劣化せず、また次年度以降の再利用も容易である。
- ・PowerPoint を利用することで指導や説明の流れができ、指導内容が統一できる。

○課題

- ・画面に注目する寄宿舎生は増えたが、文字理解が難しい寄宿舎生の関心は薄いままのように感じられた。文字を少なくする、イラストなどを多く取り入れるなど、改善が必要である。

- ・文字の大きさ等、作成時の画面とはズレが生じる場合があるため、事前に一度確認が必要である。(端末が変わると表示される画面や文字にズレが生じるので、実際に使用する端末で事前の確認を行う。)
- ・アニメーションなど資料の容量が大きくなりすぎると、フリーズなどの不具合が出ることが多くなる。
- ・オリエンテーションの最中に機器の調子が悪くなった場合に備えて、補助資料を用意する必要がある。

[6 その他]

- ・HDMIケーブルの調子が悪く（断線しているか接触不良）、映像が途切れることがある。情報部に改善をお願いしたい。
- ・PowerPointのデータは、パソコンの画面がそのままiPadの画面に反映されるわけではないため、資料の作成時からそのことに留意する。

生活領域名 生活指導 題材名 避難方法について確認しよう 指導者名 男子棟職員

[1 対象寄宿舎生]

- ・男子棟 全寄宿舎生

[2 ねらい]

- ・避難訓練の指導を通じて、寄宿舎での避難の仕方を学び、混乱なく避難訓練に参加することができる。

[3 使用したアプリ]

- ・Microsoft PowerPoint



[4 生活指導の様子] 指導の形態（小集団）

- ・一斉指示では理解の幅に差があるため、一人一人に上手く伝えることができなかつた反省を元に、小集団で指導を行うことで生徒の反応を観察する。
- ・小集団の内訳は、言語理解の力と集団参加の実態を考慮し、17名を8グループに分けて行うことで、避難訓練への理解を図ることとした。

日程	時間	舎生
一日目	7時～	Aグループ（言語理解がある程度あり、集団参加可能）2人
	7時半～	Bグループ（言語理解がある程度あり、集団参加可能）3人
二日目	7時～	Cグループ（言語理解があり、小集団が好ましい）3人
	7時半～	Dグループ（言語理解があり、集団参加可能）4人
三日目	7時～	Eグループ（言語理解が難しく、集団参加が難しい）1人
	7時半～	Fグループ（言語理解がある程度あり、集団参加が難しい）1人
四日目	7時～	Gグループ（言語理解がある程度あり、集団参加が難しい）1人
	7時半～	Hグループ（言語理解がある程度あり、小集団が好ましい）2人

- ・その場にいられない生徒への支援と資料作りに工夫が必要との反省が出ていたため、指導の集団を小さくし、内容もそれぞれに合わせたもので行うこととした。
- ・作成した資料をiPadで見合いながら、事前指導を行う。
- ・当日は進行する職員と、生徒の様子を観察する職員で役割分担をして行った。

生活指導の流れ	主な生活行動と指導・支援の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が集まったらあいさつをする。 ・予告無しで避難訓練があることを伝える。 ・事前指導を iPad で行うことを伝える。 ・「災害は予告無しで来るよね」などと話すところからスタート
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad を見ながら、避難訓練のクイズを出して確認をする。 ・一人ひとりに解答を確認し、代表者に選択してもらう。 ・選択問題の場面では、実際に iPad を指してもらい、参加者で正解の確認をする。 ・職員からの質問にジェスチャーで返答できる場合、実際にやってもらい、どんな体勢で避難すれば良いのかを確認した。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・予告無しの訓練であることから、日時には触れず、指導の内容を確認する。 ・あいさつをして終了。

[5 経過]

A, Bグループ

- ・普段から iPad を利用している生徒だったので、実施を楽しみにしている様子が見てとれた。質問への反応や操作など食いつきもよかった。
- ・集団参加の中では比較的静かに聞いていることが多い生徒なので、理解度や反応を直接確認することができてよかった。
- ・問い掛けのスライドに対し、間違った選択をした時には、正しい方を理解するまで説明した。

C, Dグループ

- ・集合時にはそれぞれ思い思いの場所に座っていたが、iPad があることがわかると自ら見える位置に移動していた。
- ・説明の際、画面を見て自ら答える姿があった。避難の行動を「姿勢を低くする」「口をふさぐ」など実際に動きで示してくれるなど、積極的に答えようとする姿が見られた。

Eグループ

- ・画面を見ることはあったが、最後まで見続けることは難しかった。

Fグループ

- ・促すと画面を見るが、継続してみることは難しく、視線は手弄りの方に向くことが多かった。
- ・文字、絵の理解はあるが、興味を持つ様子はなかった。
- ・職員からの問いかけに対してはオウム返しのため、理解できているのか確認が難しかった。

Gグループ

- ・導入までは座って返事をしていたが、iPad を動作させると safari を起動させようとして落ち着かなくなった。その後職員が側に付くことで、画面に注目しクイズに答えることができた。間違った選択をしたときは正解を説明した。
- ・あいさつをして終了することができた。

Hグループ

- ・iPad に興味を示し、注目して座っていた。
- ・一通り PowerPoint の説明を見た後で、クイズ形式に挑戦したことで、理解できていることがわかった。

- ・クイズ形式で楽しく学んでいた。

[6 成果と課題]

○成果

- ・見える位置に移動して画面を見ようとする姿が見られた。
- ・選択式であることで、自分で考えて答える場面を設けることができた。
- ・データで作ってあることで、対象生徒に合わせた内容に作り直すことも可能であり、指導の内容も統一できる。
- ・生徒の力に応じて内容を絞って構成したことで、子どもたちの注目する様子が見られた。
- ・小集団で行う分には iPad の大きさでちょうど良い。
- ・小集団で行ったことで、個々の理解度が確認できた。
- ・小集団でのやりとりだったため、子どもの状態に合わせた説明ができた。

○課題

- ・クイズ形式でデータを作成したので、誤った情報を覚える可能性があるかもしれない。今回のようにグループに分けて行うのであれば「正しい手順を伝える」「明らかに違う答えを入れた選択肢にする」といった工夫をすると良いのではないか。

[7 その他]

- ・iPad のバージョンによって、再生できる物・保存できない物などがあった。
- ・PowerPoint がタブレットに上手く引き継がれないことがあった。

生活領域名 社会性 題材名 希望を伝えよう

指導者名 佐藤祐市

[1 対象寄宿舎生]

- ・ 高等部 3 年男子

[2 ねらい]

伝えたい事柄を小声や早口で話すため、聞き取りが難しく、聞き返すと戸惑い始め、次第に言葉が出なくなることや、聞き違ったまま本人はうなずいてしまうことがみられる。その結果、意思疎通が成立しないままとなるため、文字理解の力を活用し、筆談をあわせて意図を伝える楽しさを育むことをねらいに取り組むこととした。

[3 使用したアプリ]

筆談パット



[4 生活指導の様子] 指導の形態（個別）

昨年度より iPad を用いた筆記の伝えかたを奨め、今年度に入り書いて伝えることへの抵抗が減少してきたように感じている。塗り絵への関心が高く、昨年度から学習時間に取り組んできた。今年度は関心の高い「塗り絵」の希望を伝える取り組みを、下校後の時間を中心に進めていくこととした。

生活指導の流れ	主な生活行動と指導・支援の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私服に着替えた後に、自室で説明する。 ・ 良いときは「いいです」難しいときは「ちがいます」と話すことを伝える。 ・ 学習時間の課題内容を伝える。 ・ 希望の塗り絵をタブレットに書いて教えてくれるよう説明する。 ・ 筆談パットを起動する。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会話とあわせて塗り絵のキャラクター名を筆談パットに書いてもらう。 ・ 書かれた名前はスクリーンショットで保存する。 ・ 入力内容を確認する：本人に「〇〇ですか」と確認を求め、内容が伝わっていない場合は、指導者が推測される言葉を書いて提示し確認を求める。 ・ 良いときは「いいです」難しいときは「ちがいます」と伝える。 ・ 可能であれば、画像検索を用いて塗り絵の選択を求めてみる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad を用いて教えることで伝わっているか本人と確認する。 ・ 選択された画像を基に、プリンターで印刷して渡す。 ・ 指導者は「教えてくれてありがとう」と感謝を伝え、本人は良かった場合は「いいです」と話しながら受け取る事を勧める。

[5 経過]

今年度取り組み始めた 6 月には、iPad を手にするのに戸惑う様子がみられたものの、2~3 回のやりとりで戸惑うことは無くなり、進んで文字を書く姿が多くなった。画面上は 1 行程度の記

入となるが、伝えたい物の名称を中心に書くことが多く不便さは感じていないようだ。書きたい単語が思い浮かばない場合は、職員からキーワードになりそうな事柄や興味のある事柄を伝えると、応じて書き込むことや、思い出したように書き直す様子がみられている。内容が違っていた場合には職員は「違います」と言うように促しているが、利き手を横に振り「違います」という仕草をすることが多い。それでも意思が伝わることから許容している。希望のキャラクターが描かれた塗り絵を受け取ると嬉しそうにしている。

8月から学習時間を利用し、筆談パットを用いたクイズを試みてみた。クイズやなぞなぞは大好きで、本を読んで過ごすこともある。指導の題材とは違った方向だが、iPadを通じてやりとりの楽しさを感じてくれることを狙って試みた。すると、9月中頃より筆談パットを使っのやりとりを本人から誘ってくるのがみられるようになってきた。やりとりの楽しさを感じることで、関心が高くなったことに併せ、本人目線の利用効果を実感した。

[6 成果と課題]

成果

- ・書いて伝えることで、希望が伝わりやすくなり戸惑うことが少なくなった。
- ・職員との意思疎通が行いやすくなり、難しい場合にききあうことの合意も取りやすくなった。
- ・iPadの準備を通じて、待つ、約束などのやりとりが増え、意思表示の機会が増えた。
- ・iPad利用を自ら求めてくるが増えてきた。

課題

- ・iPadの用意に手間取り、本人を待たせることが多い。

[7 その他]

- ・筆談パットが入っていないiPadではメモ帳や黒板などのアプリを利用している。